

小金井市

公共施設の在り方・再編方針

(素案)

令和7年11月 時点
小金井市

目 次

第1章 公共施設在り方・再編方針について	1
1. 小金井市公共施設在り方・再編方針策定の趣旨	2
2. 方針の位置付け	3
3. 対象施設	3
4. 方針の構成	4
第2章 本市の現状と公共施設等総合管理計画	5
1. 本市の現状	6
1 – 1. 人口	6
1 – 2. 児童数・生徒数の推移	12
1 – 3. 財政状況	14
2. 小金井市公共施設等総合管理計画	15
2 – 1. 総合管理計画の内容	15
第3章 これからの公共施設が目指すビジョンとエリア別再編方針	21
1. これからの公共施設が目指すビジョン	22
1 – 1. これからの公共施設が目指すビジョン	23
1 – 2. これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）	24
2. エリア別の公共施設の再編	25
2 – 1. 交流・創造の拠点としてのエリア	25
2 – 2. エリアを単位とした公共施設再編	27
第4章 公共施設の再編の方向性	33
1. 公共施設の再編の方向性	34
1 – 1. これからの公共施設のビジョンとエリア別の公共施設の再編の考え方	34
1 – 2. 検討の優先順位について	35
1 – 3. 学校施設について	35

第5章 今後の進め方	39
1. 今後の検討の進め方	40
1 – 1. 検討体制	40
1 – 2. 検討の進め方	40
1 – 3. 想定される検討内容	41
1 – 4. 民間活力の活用と官民連携の推進	41
1 – 5. 市民・関係者との連携	41
参考資料.....	43
1. 在り方・再編方針の策定に当たって（検討経緯）	44
1 – 1. 小金井市公共施設在り方検討委員会	44
1 – 2. 市民ワークショップ	45
1 – 3. 庁内検討	45
1 – 4. 市民ワークショップ	52
1 – 5. 職員検討会	55
2. 公共施設の基礎情報	57
2 – 1. エリア別建築年別公共施設	57
2 – 2. 公共施設の分布状況	60
2 – 1. エリア別建築年別公共施設	60
2 – 2. 公共施設の分布状況	63

第1章 公共施設在り方・再編方針について

1. 小金井市公共施設在り方・再編方針策定の趣旨

小金井市（以下「本市」という。）では、公共施設の老朽化や財政負担の課題に対応するため、公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進しています。

平成23（2011）年度には「施設白書」を作成し、施設の現状や課題の“見える化”を図り、平成25（2013）年度には「公共施設マネジメントの構築に向けて」を取りまとめ、公共施設の将来像や管理の方向性についての基本的な考え方を整理しました。これらの取組を踏まえ、公共施設等の全体を把握し、長期的な視点を持って、更新、統廃合、長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現するため、平成28（2016）年度には「小金井市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

また、各公共施設等の現状を踏まえた今後の計画的な維持・更新の実施体制の構築に向け、令和2年（2020）年度までに各種個別施設計画を策定しています。

その後、国の新たな指針に準拠するとともに、各種個別施設計画に記載した対策の内容を反映させ、施設類型ごとの基本的な方針等を見直すため、令和4年（2022）3月に小金井市公共施設等総合管理計画の改定を行いました。改定版では、今後的人口動向や財政見通しを踏まえ、すべての公共施設を現状のまま維持・更新することは困難であるとの認識のもと、行政サービス水準の著しい低下を招かないように配慮しつつ、公共施設の総量抑制、将来更新費用及び維持管理費の縮減に努める必要があるとしています。

本方針は、小金井市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再編に向けた考え方等を整理することで、公共施設の再編等による市民サービスの向上及び持続可能な行政サービスの実現を図るために策定するものです。

2. 方針の位置付け

本方針は、各施設の個別施設計画とともに公共施設の再編に向けて、小金井市公共施設等総合管理計画を補完するための方針と位置付けます。

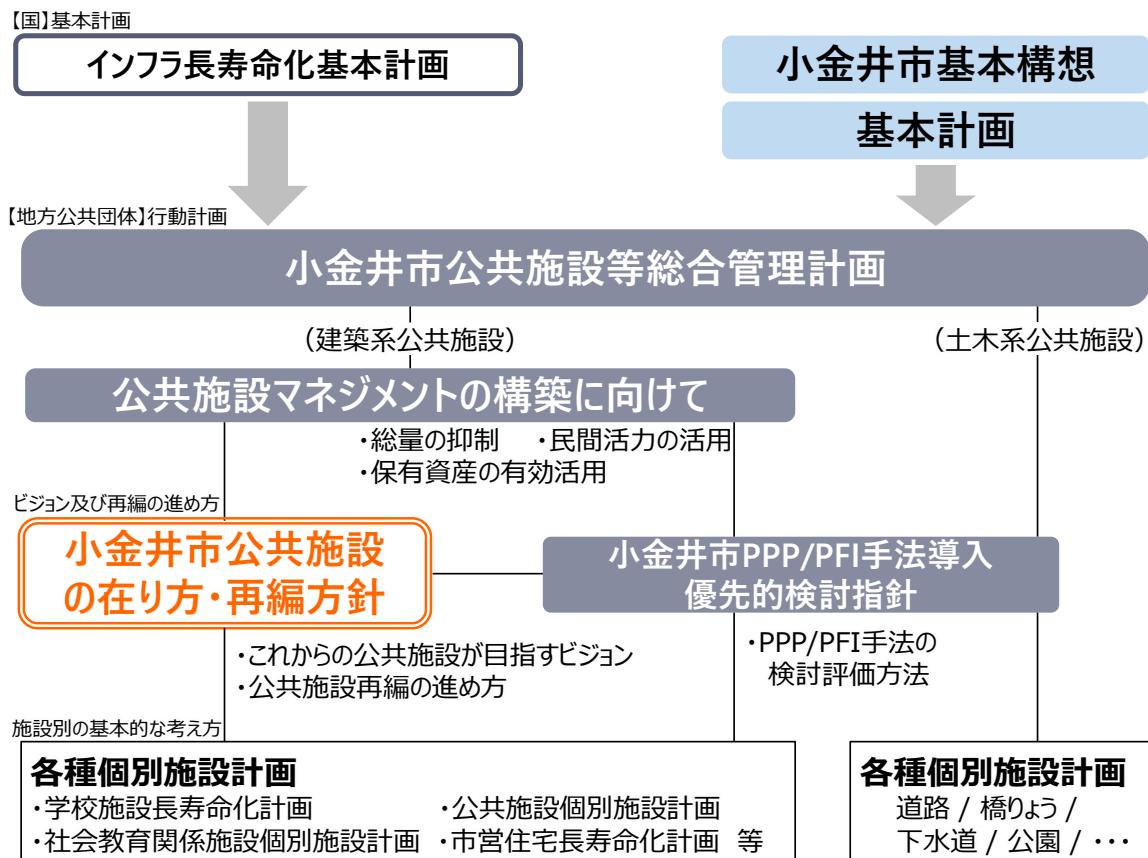


図 1 : 本方針の計画的位置付け

3. 対象施設

本方針では、本市が有する施設及び民間施設を借り上げて公共サービスを提供している建築系公共施設を対象とします。

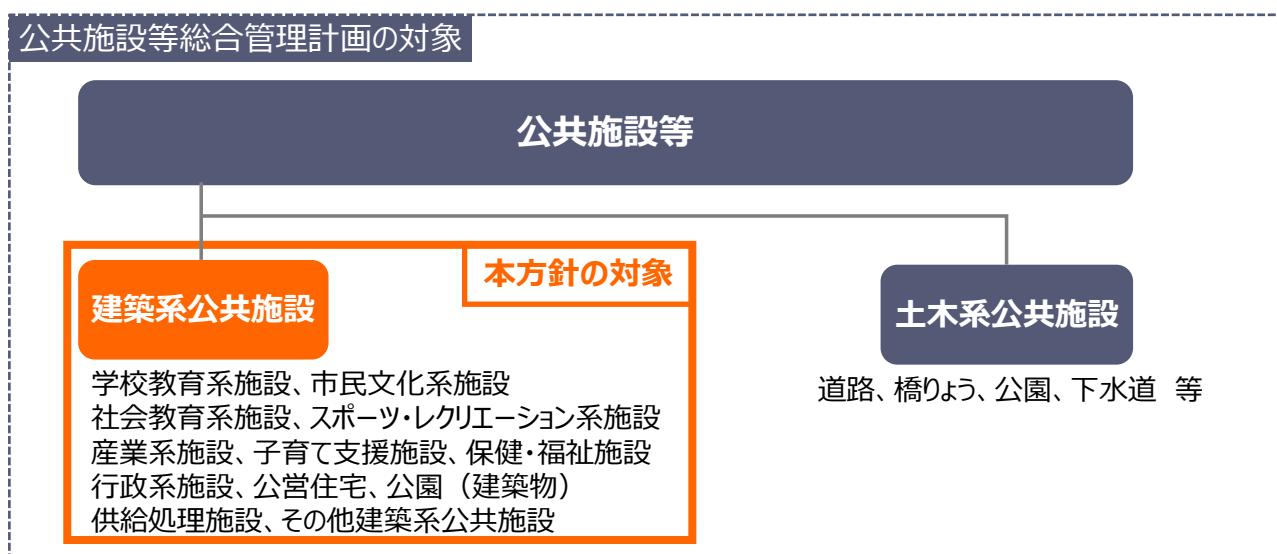


図 2 : 本方針の対象範囲

4. 方針の構成

本方針は以下の5章構成となっています。

第1章、第2章では、本方針の位置づけと、本市の現状及び公共施設等総合管理計画による現状認識や方向性について示します。第3章では、現状認識等を踏まえた、これからの公共施設が目指すビジョンと公共施設再編の基本単位としてのエリアの考え方を示します。第4章、第5章では、公共施設再編の推進方策を示します。

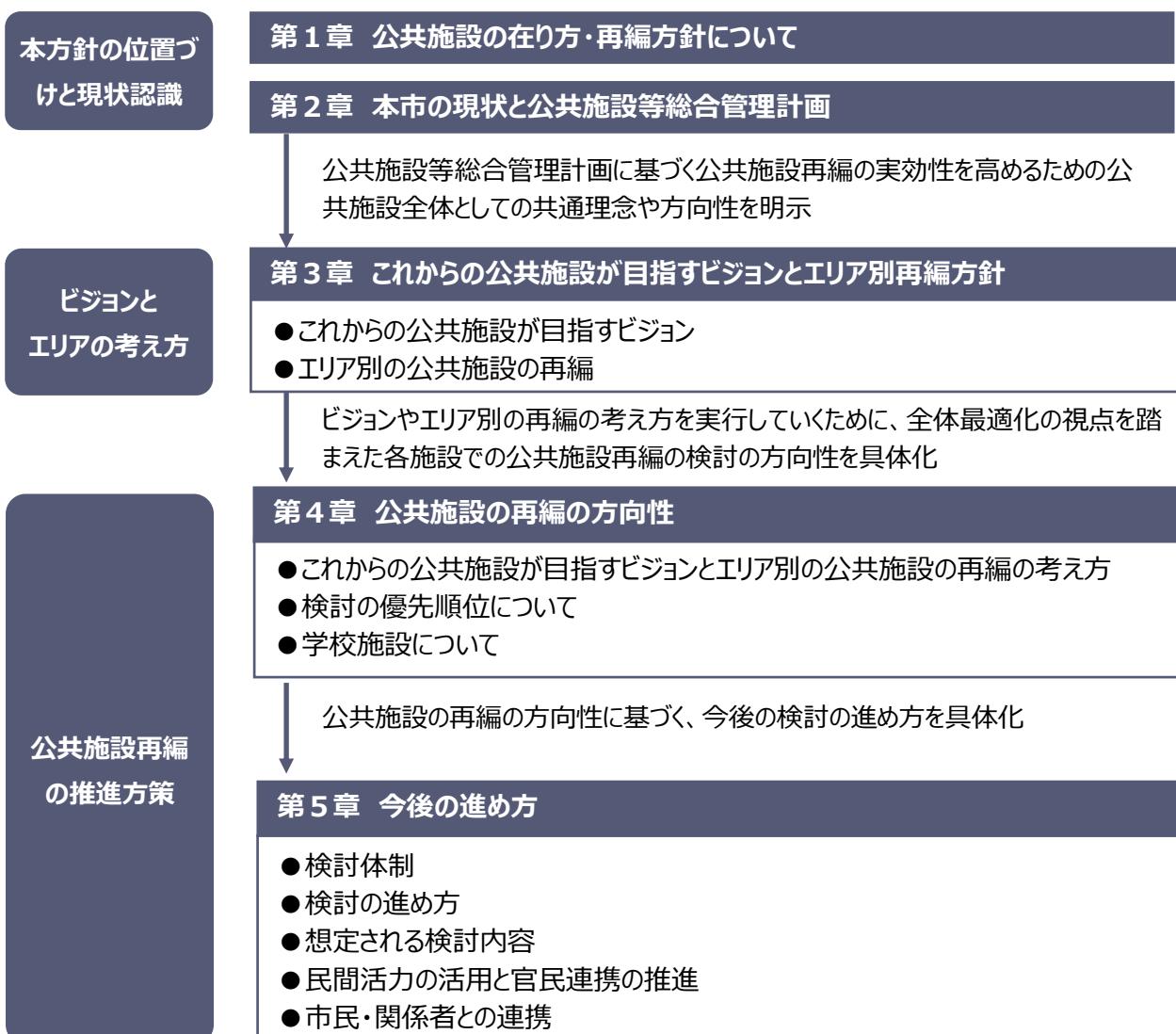


図3：本方針の構成

第2章 本市の現状と公共施設等総合管理計画

1. 本市の現状

1-1. 人口

(1) 総人口の推移

本市の総人口は、昭和45（1970）年には、約9.05万人でしたが、その後増加の一途をたどっており、令和7（2025）年には約12.53万人となっています。

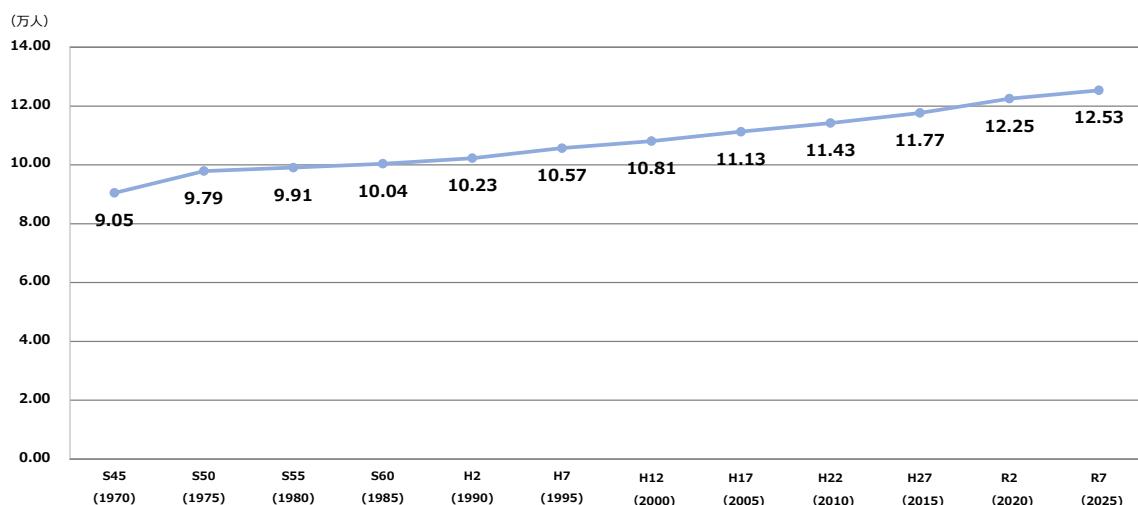


図4：総人口の推移と将来推計人口

出典：S45～H17までは市報から転載（各年4月1日時点）、
H22～R7は、住民基本台帳人口及び外国人登録人口、住民
基本台帳人口（外国人住民を含む。）より作成

(2) 年齢三区分別の推移

年齢三区分¹の人口をみると、年少人口は令和7年に約1.57万人、生産年齢人口は同様約8.24万人、老人人口は約2.72万人となっています。

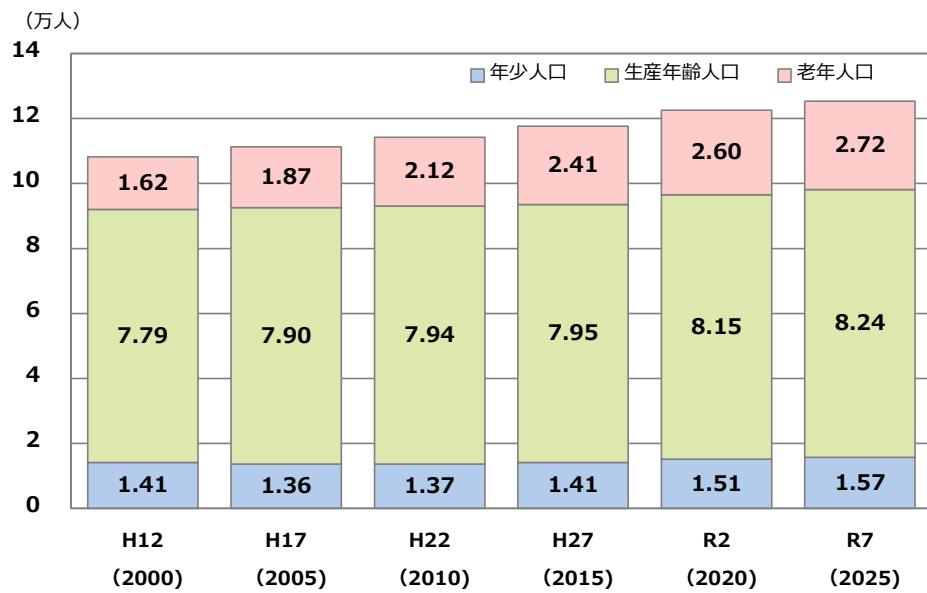


図5：年齢三区分別の推移と将来推計

出典：H12～H17までは市報から転載（各年4月1日時点）、
H22～R7は、住民基本台帳人口及び外国人登録人口、住民
基本台帳人口（外国人住民を含む。）より作成

※1：年少人口（0歳から14歳まで）、生産年齢人口（15歳から64歳まで）及び老人人口（65歳以上）の三区分に分類した定義

年齢三区分の人口構成比をみると、平成12（2000）年時点では老人人口割合は約15.0%でしたが、令和7（2025）年時点では老人人口割合は約21.7%（市民の約5人に1人が65歳以上）となっています。

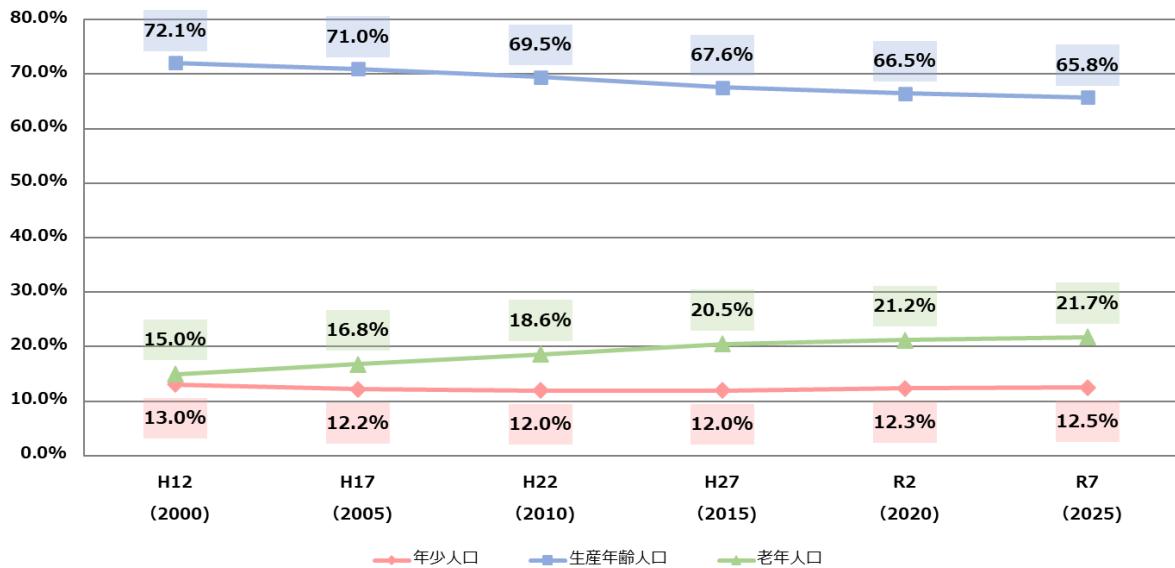


図6：年齢三区分別の推移と将来推計（構成比）

出典：H12～H17までは市報から転載（各年4月1日時点）、
H22～R7は、住民基本台帳人口及び外国人登録人口、住民
基本台帳人口（外国人住民を含む。）より作成

(3) 地域別の人口

1) 人口総数

人口が多い町丁目としては、東町4丁目5,799人、緑町5丁目5,736人、前原町3丁目4,609人、本町5丁目5,842人、及び貫井北町3丁目5,793人を挙げることができます。

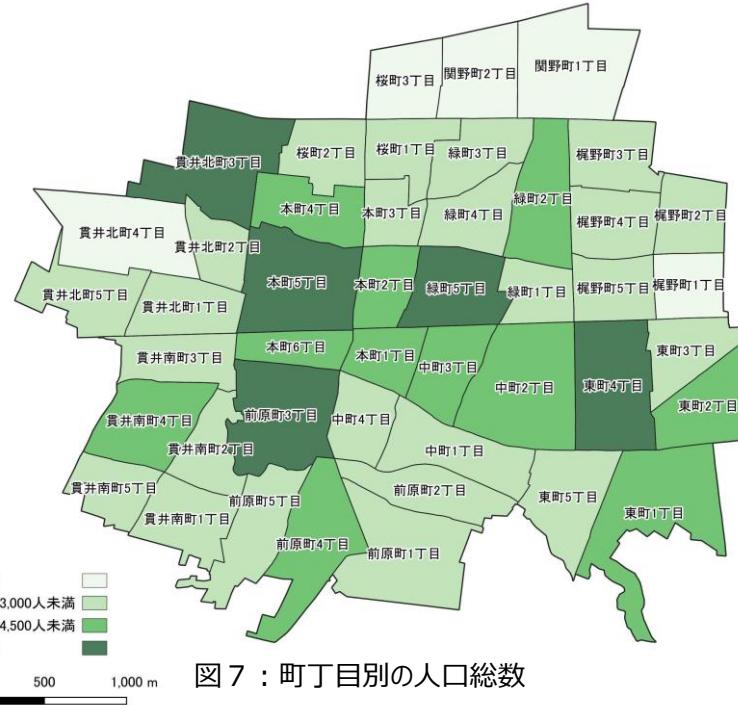


図7：町丁目別の人口総数

出典：令和7年4月1日時点住民基本台帳人口
(外国人住民を含む。)

2) 人口密度

大学、都立公園のある町丁目や武蔵小金井駅周辺を除き、人口密度はおおむね均一的な傾向が見られます。

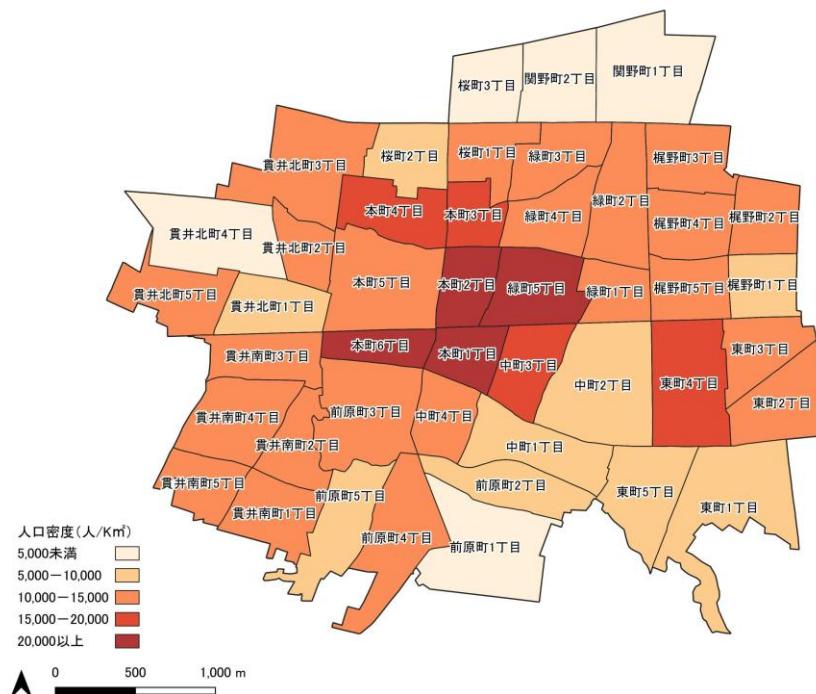
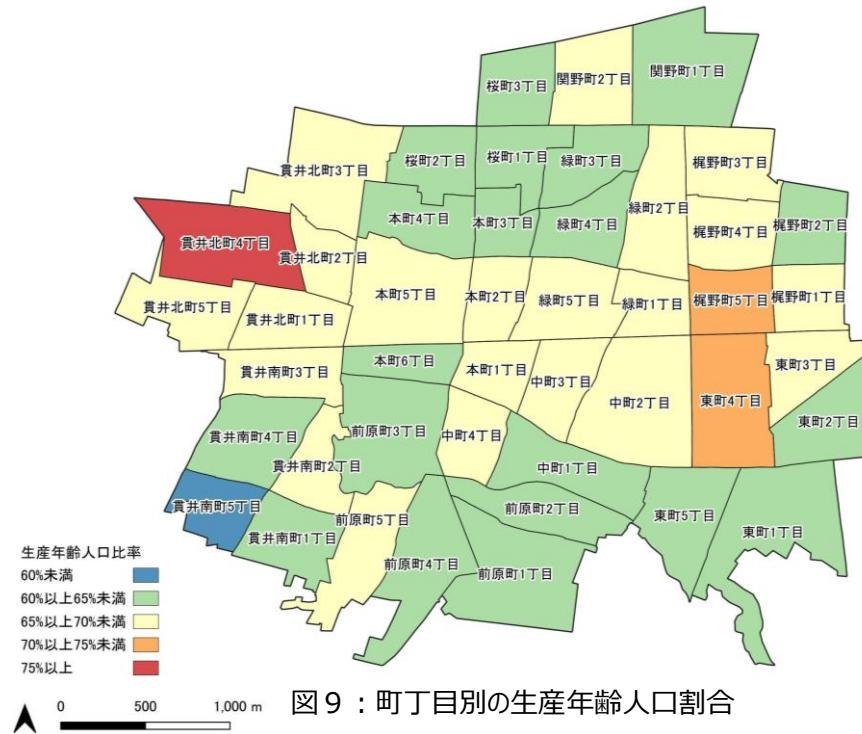


図8：町丁目別の人団密度

出典：令和7年4月1日時点住民基本台帳人口
(外国人住民を含む。)

3) 町丁目別の年齢三区分人口割合

生産年齢人口は、貫井北町4丁目で特に高い割合を示しています。一方、貫井南町5丁目の周辺や桜町の周辺地域、市域の南部の町丁目においては、生産年齢人口の割合が他の地域より低くなっています。これらの町丁目では、老人人口の割合が高い傾向が見られます。



出典：令和7年4月1日時点住民基本台帳人口
(外国人住民を含む。)

年少人口は、東町1丁目、貫井北町3丁目、4丁目では年少人口の割合が15%以上となっています。一方で、東町4丁目、中町4丁目、本町1丁目、2丁目、4丁目、桜町3丁目では年少人口の割合が10%未満となっています。

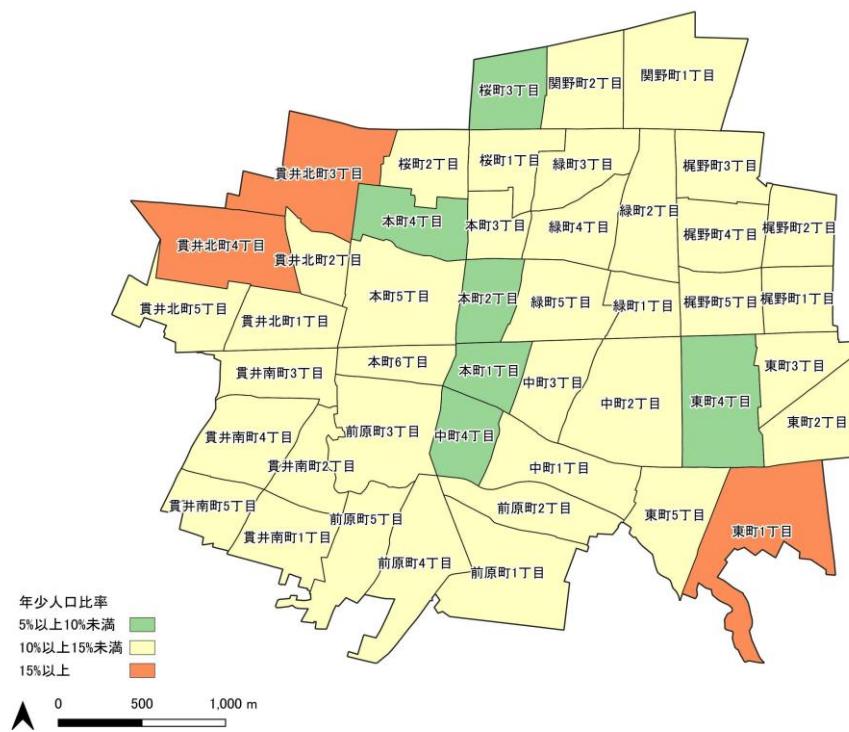


図10：町丁目別の年少人口割合

出典：令和7年4月1日時点住民基本台帳人口
(外国人住民を含む。)

老人人口の割合は、生産年齢人口や年少人口の割合が低い町丁目で高い傾向にあります。特に、桜町3丁目、貫井南町5丁目では30%以上となっています。

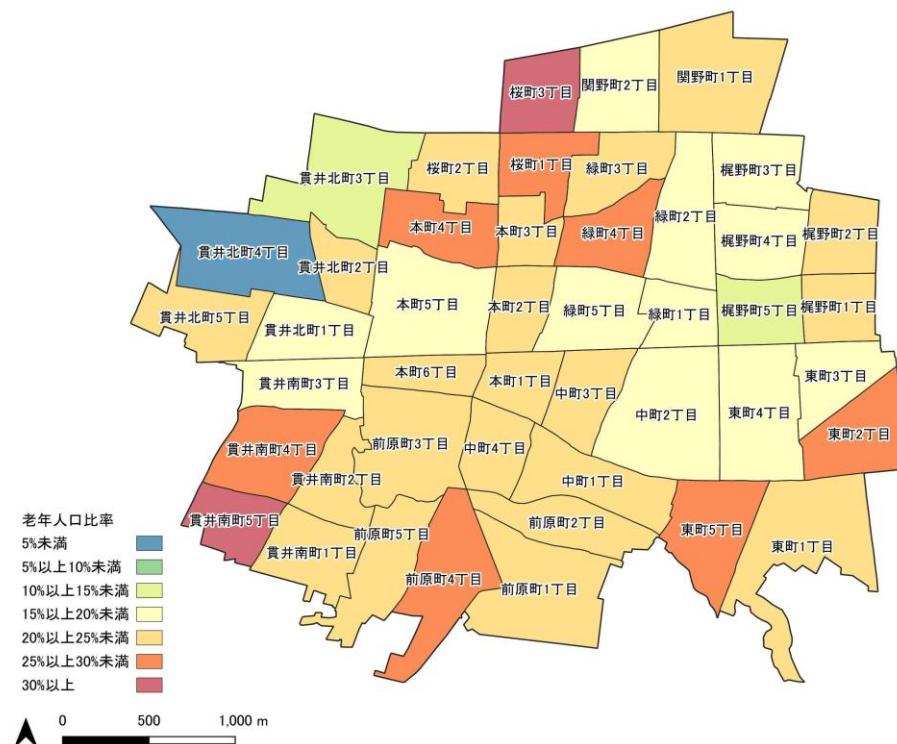


図11：町丁目別の老人人口割合

出典：令和7年4月1日時点住民基本台帳人口
(外国人住民を含む。)

1 – 2. 児童数・生徒数の推移

市全体の児童・生徒数は、昭和53（1978）年に11,366人をピークに減少傾向で推移していましたが、平成28（2016）年以降増加傾向に転じ、令和2（2020）年時点で7,733人となっています。今後も増加の見込みとなっていますが、令和10（2028）年に9,504人となるのをピークに減少に転じ、令和32（2050）年には7,321人になると小金井市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）では推計しています。

学校別にみると、今後も児童・生徒数の増加傾向が続き、当面は教室確保を優先的に取り組む必要がある学校もある一方で、既に横ばいから減少傾向に転じている学校もあるなど、学校ごとに状況が異なっています。

また、本市の児童・生徒数は、短期的には増加傾向が続く見込みであり、同時に、35人学級への対応も必要であることから教室不足への対応が喫緊の課題となっています。

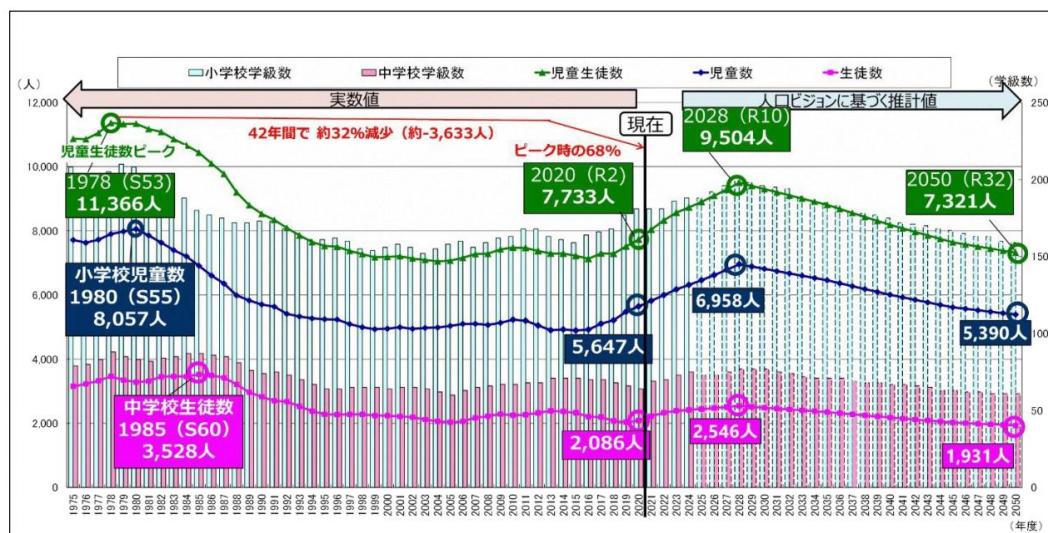


図12：児童生徒数の推移及び将来

出典：小金井市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

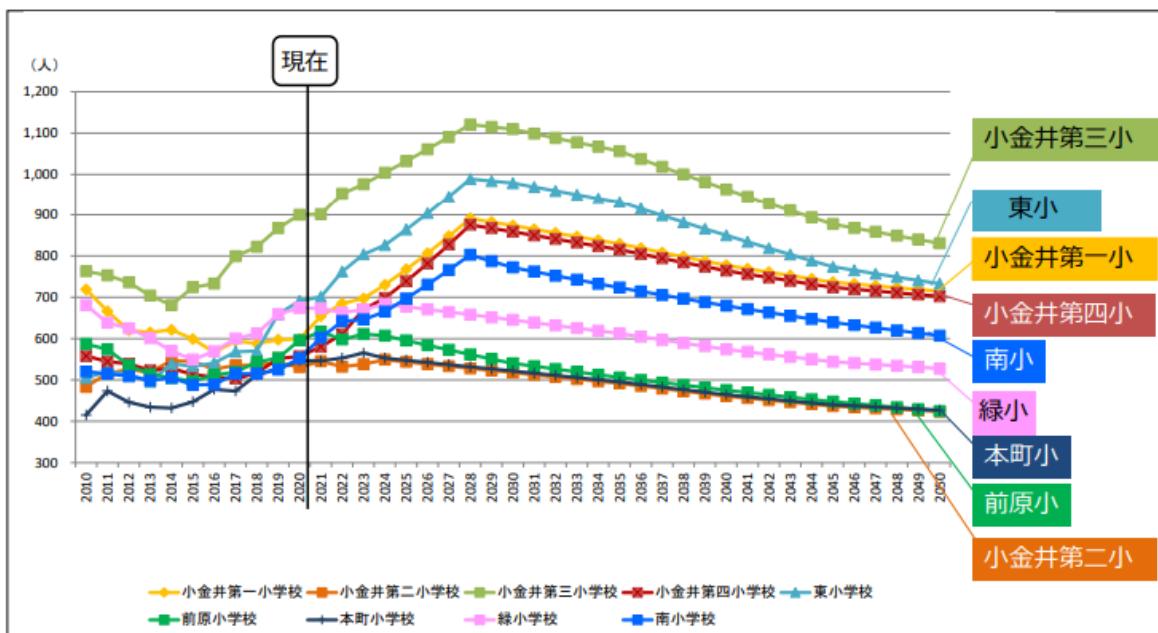


図13：小学校別児童数の変化

出典：小金井市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

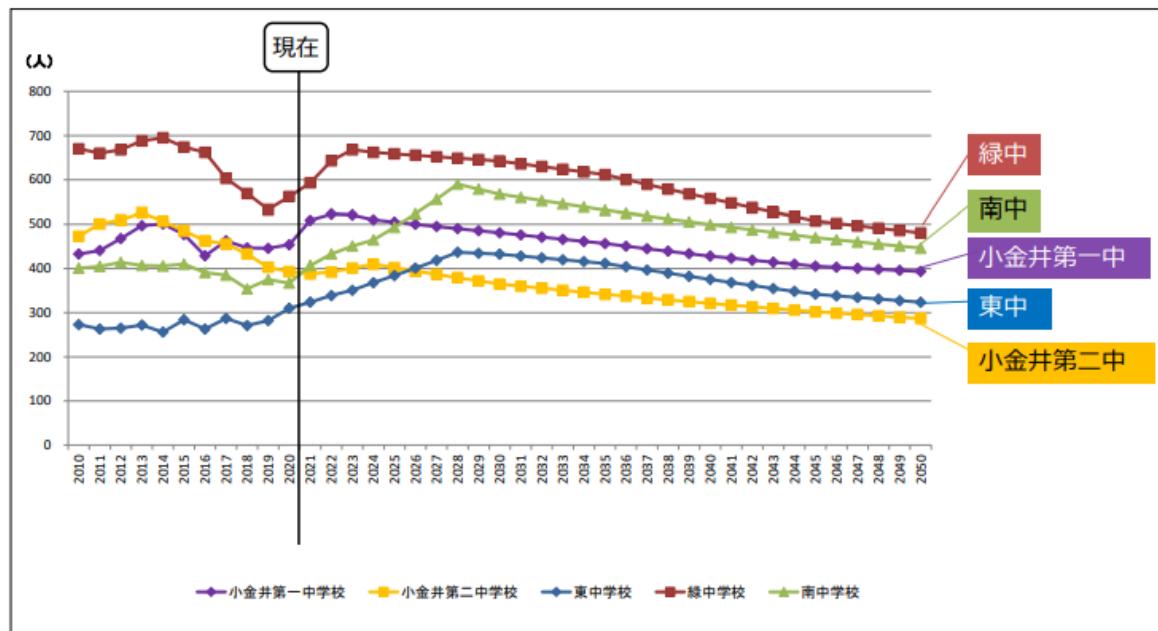


図14：中学校別児童数の変化

出典：小金井市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

1 – 3. 財政状況

市税収入と主な歳出

近年、義務的経費及び繰出金の合計が市税収入を上回る年が続いており厳しい財政状況が続いている。令和3（2021）年以降は市税収入も増加傾向にありますが、それ以上に社会保障費などを含む扶助費を中心に歳出額も増加しています。

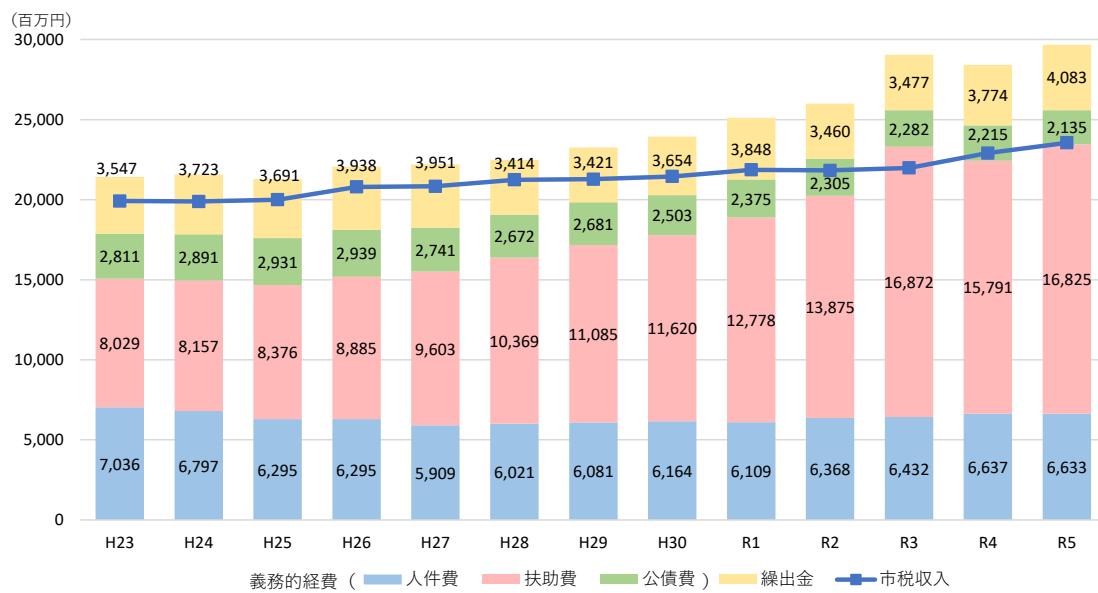


図15：市税収入と主な歳出（義務的経費及び繰出金）の推移（百万円）

出典：小金井市 財政状況資料集

2. 小金井市公共施設等総合管理計画

公共施設等総合管理計画は、地方公共団体が保有する公共施設等について、全体の状況を的確に把握し、長期的な視点に立って、更新・統廃合・長寿命化等を計画的に推進することにより、将来の財政負担の軽減・平準化を図るとともに、公共施設等の最適な配置を実現することを目的とした計画です。

本市では、平成28（2016）年度に小金井市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）を策定し、令和3（2021）年度に改定を行いました。総合管理計画では、今後、市が保有する公共施設等の長寿命化を図りながら維持し続ける場合、建替え・更新に必要となる費用が充当可能な財源を上回ることとなり、適切な維持管理・更新を行うことが困難であるとしており、また、人口動向の変化等にともない市民サービス需要も変化していく可能性があるとしています。そのため、公共施設等の管理に関する基本的な考え方と取組方針を定め、市民サービスの提供の要否や提供形態（周辺自治体との連携、民間活力の導入等）等を踏まえ各施設の在り方・総量を見直し、必要な市民サービスを提供しながら、同時に財政負担の軽減を図っていく必要がありますとしています。

2-1. 総合管理計画の内容

総合管理計画（令和3年度改訂）では公共施設の現状や基本的な考え方等について、以下のように整理しています。

（1）公共施設の用途分類別の構成割合

公共施設の用途分類別の延床面積の構成割合が最も高い用途分類は学校教育系施設であり、57.9%を占めています。次に構成割合が高い用途分類は、スポーツ・レクリエーション系施設で、8.1%を占めています。次いで、構成割合の高い順として、行政系施設が6.0%、市民文化系施設が5.7%を占めており、これら上位4つの用途分類で全体の約80%を占めています。

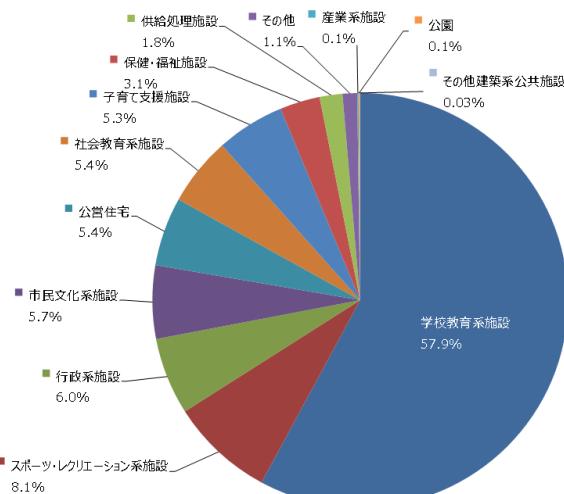


図16：公共施設の用途分類（大分類）別・延床面積の割合

出典：小金井市公共施設等総合管理計画（令和4年3月）

(2) 建築年度別・用途分類別の延床面積

総合管理計画では、本市の建築系公共施設を、建築年度別・用途分類（大分類）別に延床面積を集計しています。その結果、令和3（2021）年度時点において建築から30年以上を経過した施設の延床面積は全体の76.9%を占めています。一般的に建築後30年程度を経過すると、建物の躯体（壁、床等）や設備（空調、給排水、電気類等）の経年劣化等により、大規模な修繕や改修の必要性が高まるため、ここでは、老朽化の一つの目安として捉えています。

年代別に内訳をみると、建築から40年以上50年未満を経過した施設の延床面積の割合が最も高く、全体の31.8%を占めています。

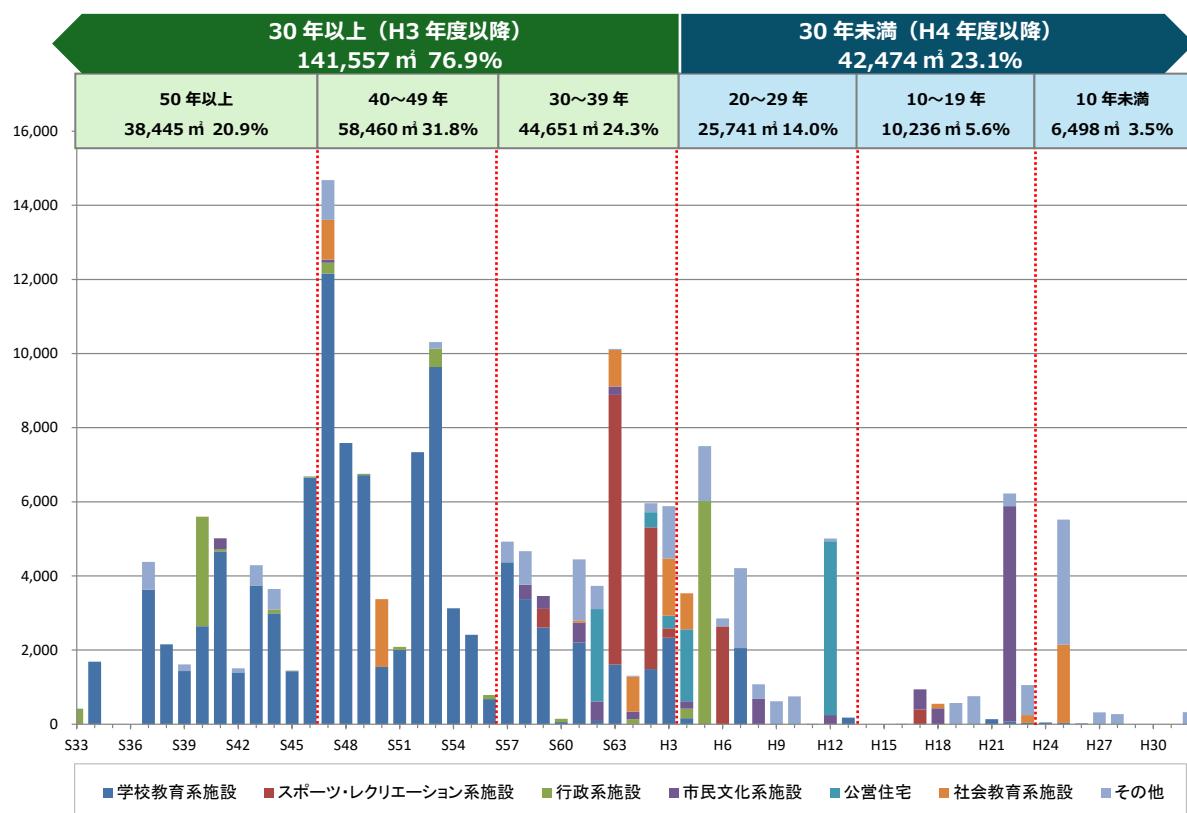


図17：建築年度別・用途分類別の延床面積

出典：小金井市公共施設等総合管理計画（令和4年3月）

(3) 公共施設等の更新費用の試算

1) 耐用年数経過時に単純更新した場合 -----

総合管理計画では、建築系公共施設と土木系公共施設を合算して単純更新した場合の30年間の将来更新費用の総額は約1,693億円であり、1年当たりの平均額では約56億円を必要としています。

本市における5年間（平成28（2016）年度から令和2（2020）年度まで）の公共施設等に係る工事請負費の年平均額は約9.8億円であるため、今後も更新費用に9.8億円を充てられると仮定すると、現在保有している全ての公共施設等を更新し続けるためには、現在要している工事請負費の約5.8倍の更新費用が必要となります。

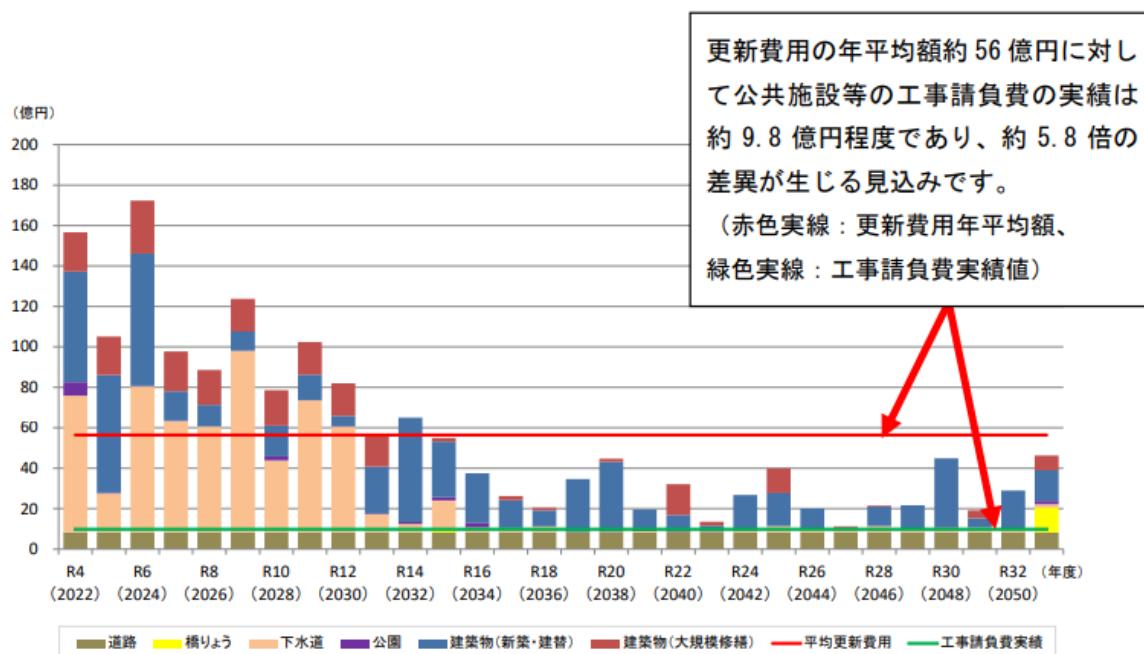


図18：耐用年数経過時に単純更新した場合の更新費用の推計

出典：小金井市公共施設等総合管理計画（令和4年3月）

2) 長寿命化対策を反映した場合

総合管理計画では、「①耐用年数経過時に単純更新した場合」で示した耐用年数より各施設を長寿命化した場合の建替え及び改修に要する更新費用の推計を行っています。

この場合の30年間の将来更新費用の総額は約1,484億円であり、1年当たりの平均額では約50億円が必要としています。

長寿命化を実施した場合でも、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度まで）の5年間の公共施設等に係る工事請負費の年平均額の約5.1倍の更新費用が必要となります。

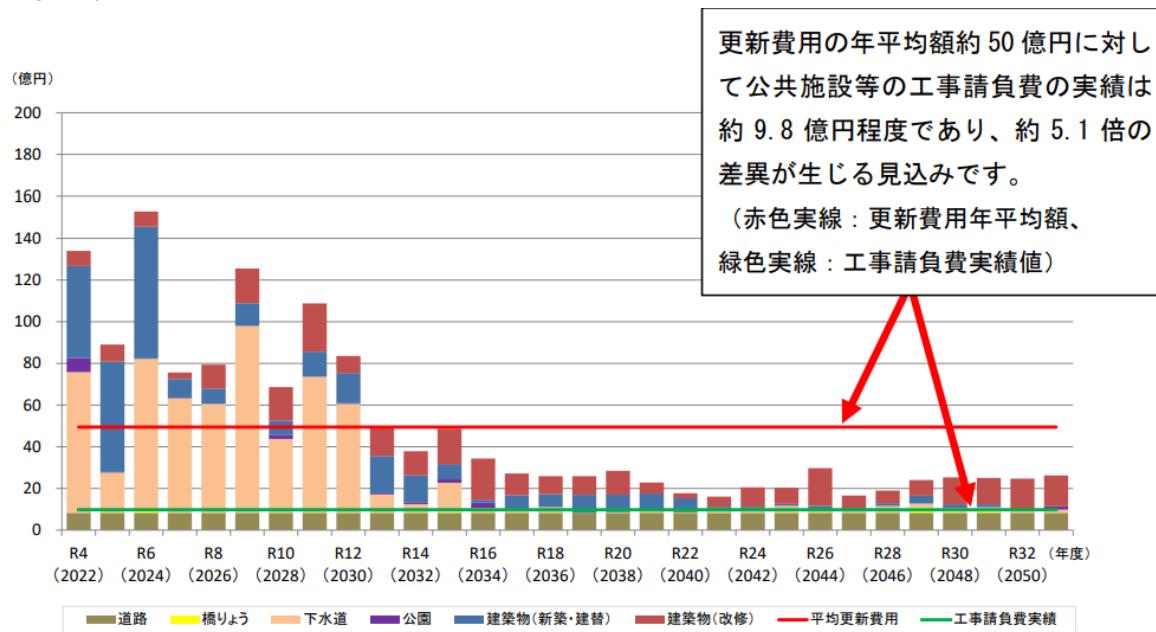


図19：長寿命化対策を反映した場合の更新費用の推計

出典：小金井市公共施設等総合管理計画（令和4年3月）

（4）現状や課題に関する基本認識

総合管理計画では、本市の現状や課題について次の観点から整理を行っています。

○ 公共施設等の維持管理・更新等に係る財源不足

建築系公共施設及び土木系公共施設の長寿命化対策を反映した場合の将来更新費用の推計によると、財源の不足額は1年当たり約40億円であり、本市が将来的に維持管理・更新等を行っていくためには、総量の抑制、維持管理費の縮減を行うとともに、歳入の確保に努める必要があります。

○ 公共施設の利用需要と適正規模

総人口は今後減少傾向となるため、施設全体の利用需要は中長期的には低下するものと見込まれます。特に、本市の建築系公共施設の約6割の面積を占める学校教育系施設は、児童・生徒数を構成する年少人口が約18%も減少する点を重視し、余剰スペースの縮減や有効活用を積極的に検討する必要があります。

(5) 公共施設等の管理に関する基本的な考え方と取組方針

本市では、現状や課題に関する基本認識を踏まえ、将来にわたって行政サービス水準の著しい低下を招かないように配慮しつつ、財源不足への対応を図るために、次のとおり目標を掲げています。

基本目標	将来の人口動向に合わせ、総量抑制に努めるとともに、 将来更新費用及び維持管理費の縮減に努めること
------	---

本市では、総合管理計画に定める各種方針の共通理念となるべき基本的な考え方について、以下の3つを定めています。

基本的な考え方 1	施設の更新への対応を計画的に推進します 【計画的な施設更新】 将来的に増加し続ける老朽化施設の更新を計画的に進めるためには、将来更新費用の縮減と平準化が不可欠であり、公共施設等の最適化に係る方向性を定めて、集約化、複合化、用途変更及び長寿命化等の各種施策を推進します。
-----------	--

基本的な考え方 2	適切な維持管理によって安全管理を徹底します 【安全・安心の確保】 平常時のみならず、災害などの非常時においても、公共施設等の機能を維持し、安心かつ安全な公共サービスを提供できるように、適切なマネジメントサイクルに基づいた点検診断・修繕等の維持管理を推進します。
-----------	--

基本的な考え方 3	資産の有効活用による市民サービスの向上に努めます 【市民サービスの向上】 今後の総人口の減少や少子高齢化等によるサービス需要の変化に的確に対応するためには、公共施設等の多機能化や複合化を積極的に推進するとともに、公民連携等による様々な創意工夫を凝らし、資産の有効活用を推進します。
-----------	--

第3章 これからの公共施設が目指すビジョン とエリア別再編方針

1. これからの公共施設が目指すビジョン

本市では、公共施設の多くが老朽化を迎える中、今後の人団構成の変化や多様化する市民ニーズへ対応するために、限られた財源や資産をいかに有効に活用するかが課題となっています。こうした状況のもとで、市民サービスの質を維持・向上させながら財政の持続可能性を確保するためには、従来の枠組みにとらわれず、地域社会の変化に柔軟に対応した公共施設の再編が求められます。

総合管理計画では施設ごとに在り方の検討を行なっていますが、在り方に係る全体方針がないこと、その手法等が確立されていない等、進捗について課題があります。そのため、公共施設の再編をより実効性のあるものとするには、施設の個別最適にとどまらず、全体としての公共施設の在り方を示す共通の理念や方向性が必要であると考えました。

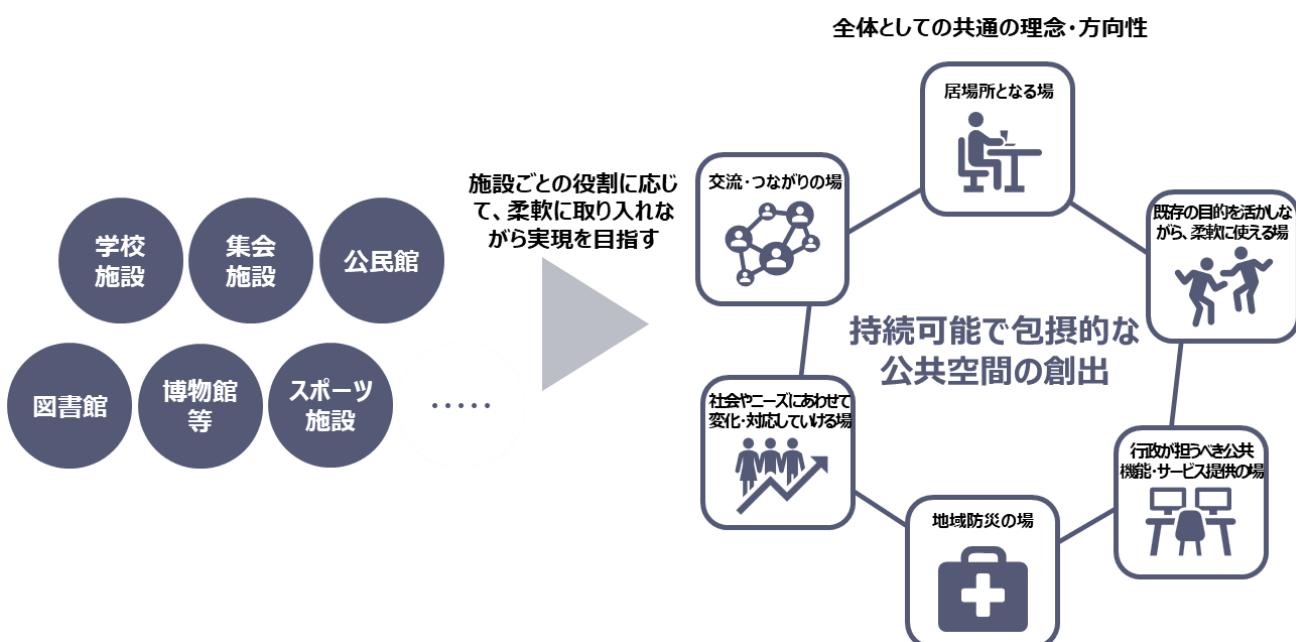
こうした認識のもと、本市では公共施設の再編にあたり、市民ワークショップ、職員検討会、公共施設在り方検討委員会での議論を踏まえて、これからの公共施設が目指すビジョンとして「6つのビジョン」を整理しました。

このビジョンはすべての施設に一律に求めるものではなく、施設ごとの役割に応じて、柔軟に取り入れていくべき理念として位置付けるものです。

なお、これらのビジョンに関わらず、法令等で定められた市として担うべき公共サービスを提供するために必要な公共施設については引き続き施設を設置します。

また、民間活力を活用することで質の向上が見込めるサービスに関しては民間事業に委ねていくことを基本として、民間事業者との官民連携手法についても様々な連携等を推進していきます。

今後は、総合管理計画における将来の人口動向に合わせた総量抑制及び将来更新費用及び維持管理費の縮減の目標を踏まえながら、これからの公共施設の目指すビジョンの実現に向けて各施設の在り方について検討を行い、公共施設の再編を推進していきます。



1 – 1. これからの公共施設が目指すビジョン

1 交流・つながりの場

これからの公共施設は、人が集まり、つながるきっかけとなる場として設置していきます。公共施設をとおして、多様なコミュニティを形成し、人と人の出会いや新しい活動との出会いが生まれ、一人ひとりが活躍できるような場として設置していきます。

2 居場所となる場

これからの公共施設は、一人ひとりの居場所になる場、目的がなくともふらっと入れる場として設置していきます。ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが利用しやすい公共空間をデザインし、つながることも、つながらないことも選べる自由を尊重し、それぞれの過ごし方が共存できる空間を目指すとともに、ひとりでもグループでも利用したくなるような場として設置していきます。

3 既存の目的を活かしながら、柔軟に使える場

これからの公共施設は、各施設の核となる役割を担保した上で、利用者一人ひとりがそれぞれの利用目的によって、利用できる柔軟な場として設置していきます。そのため、各施設の核となる機能以外の諸室に関しては、利用目的をできる限り、フレキシブルに利用ができるよう定め、様々な市民が利用できる場として設置していきます。

4 社会やニーズにあわせて変化・対応していく場

これからの公共施設は、利用者ニーズの変化に対応できるようなフレキシブルな構造や諸室構成にすることでいつの時代も常に利用され続ける場として設置していきます。

5 地域防災の場

災害時の拠点に位置付けられた公共施設については、防災機能の整備・充実を図り、地域防災の場として設置していきます。

6 行政が担うべき公共機能・サービス提供の場

法令等で行政が担うべき事業を実施する場として公共施設を設置していきます。民間事業として成立する事業に関しては民間に委ね、行政が担うべき事業に関しては行政が実施するにふさわしい場として設置していきます。

1－2．これからの公共施設が目指すビジョン（イメージ）

本市が描く、これからの公共施設が目指すビジョンについてイメージを具体化すること目的に、ある公共施設の1日の使われ方を描きました。

ある公共施設の1日—「つながる場所・つながらなくてもいい場所」

朝陽がゆっくりとガラス窓を照らし、開館準備をする職員がロビーのテーブルを整える。ここは市民が自由に集まる場。目的がなくても訪れたくなる、そんな温かさがある。

午前：静かなひとときと偶然の出会い

開館直後、カフェスペースではコーヒーを片手に新聞を広げる高齢者。隣の席には、タブレットを開きながら静かに作業している若者。ふとしたきっかけで言葉を交わし、地元の話で盛り上がる。年齢も立場も違うが、この場所があるから、自然に会話が生まれる。

奥のスペースでは、地域の子育て支援グループが活動を始める。「今日は何のイベントがあるの？」そんな会話が飛び交い、予定になかった参加者も輪に加わる。

午後：同じ場にいながらのそれぞれの過ごし方

昼過ぎには、学校帰りの学生がフリースペースに集まる。大きなテーブルでは自主学習をする子どもたち、壁際のソファでは読書をする若者たち。目的が決まっているわけではなく、ただ「居場所」としてここにいる。

一方、窓際の席では、静かにノートに何かを書き込んでいる人がいる。仕事のアイデアを書き留めているのか、それとも日記を綴っているのか… 周囲の賑わいを感じながらも、一人で思考を深める時間を過ごしている。

奥のスペースでは、近所のパン屋さんが「手作りパン教室」を開催。「ちょっと興味があったんだけど…」と立ち寄る市民が、気軽に参加できるのがこの施設の特徴だ。部屋の用途は固定されず、空間を自由に使うことで、市民のアイデアが広がっていく。

夕方：つながりと新しい活動のきっかけ

夕方になると、長机を囲んで「地域のまちづくり会議」が始まる。地域の防災対策や子育て支援について、様々な世代の市民が議論を交わす。多目的な空間だからこそ、議論の敷居が低く、誰でも気軽に参加できる。

その横では、ピアノの静かな旋律に合わせてギターがそっとセッションを始める。音の重なりが場を優しく包み込む。『何かやろう！』と決めなくても、人が集まることで自然と文化活動が生まれる。この空間は、一人ひとりが主役になれる場だ。

夜：また今度来なくなる居場所

閉館の時間が近づくと、職員が今日の出来事を振り返る。誰かが出会い、誰かが学び、誰かが楽しんだ場所。目的がなくても来なくなる、ここにいることで何かが生まれる。

「また来るね。」と施設を後にする人々の表情には、温かい笑顔が広がっている。

2. エリア別の公共施設の再編

本市の公共施設再編を進めるにあたっては、市民が日常的に利用する施設の利便性を維持・向上させながら、将来にわたり持続可能な施設体系を構築することが重要となります。

そのため、施設配置の前提となるエリア設定を行い、地域特性に応じた公共施設の役割と再編の基本的な枠組みを示します。

エリア設定にあたっては、小金井市都市計画マスタープラン(以下「都市計画マスタープラン」という。)における都市構造の考え方や、市民ワークショップでの意見などを踏まえ、次の2つの視点を軸に検討を進めます。

- 鉄道駅周辺や庁舎など、市内外から人が集まりやすい場所を「交流・創造の拠点」として位置付け、施設・機能の集約や複合化、公共施設の有効活用を進めること。
- 徒歩などで移動できる生活圏として市内を「5つのエリア」に区分し、地域コミュニティの暮らしや活動に寄り添いながら、施設・機能の集約や複合化、公共施設の有効活用を進めること。

これら2つの視点を組み合わせることで、公共施設の有効活用を図るとともに、地域ごとの多様なニーズに応じた持続可能な施設配置を目指します。

2-1. 交流・創造の拠点としてのエリア

都市計画マスタープランにおいて、都市機能の拠点に位置付けられている、中心拠点、副次拠点、行政・福祉総合拠点を交流・創造拠点として位置付けます。

交流・創造拠点では、既存施設や鉄道駅や庁舎等の人の集まる場所を活かした、地域住民に限らず、市内外の方の利用も想定したコミュニティ創造の拠点とします。また、新庁舎・(仮称)新福祉社会館は、行政サービス・福祉サービス提供の拠点として施設の有効活用を図ります。

(※新庁舎・(仮称)新福祉社会館については今後の事業進捗を踏まえ表現を調整します。)



(1) 武蔵小金井駅周辺

都市計画マスタープランにおいて、武蔵小金井駅周辺はにぎわいを形成する市の中心としての役割を担う中心拠点と位置付けられています。

中心拠点として、駅周辺の都市基盤を活かした乗換の利便性や周辺への回遊を促す滞留空間など交通結節点としての拠点性の向上や、企業、学校、市民及び市の連携のもとに、産業の育成を推進するとともに、多様な働き方などに対応した都市機能の誘導・集積、さらなるにぎわい・活力の創出を図ること等が求められています。

そのため、小金井 宮地楽器ホールでの文化的な活動等を通じて、地域住民同士だけでなく市内外の新たな交流の創造につながる利活用を進めます。

(2) 東小金井駅周辺

都市計画マスタープランにおいて、東小金井駅周辺は、中心拠点を補完・連携する役割を担う副次拠点と位置付けられています。

副次拠点として、既存のインキュベーション施設等を活かした、新たな事業・産業の創出を推進するとともに、多様な働き方などに対応した都市機能の誘導・集積、交通結節点としての拠点性の向上、個性豊かで、にぎわい・活力が生まれる拠点の形成を図ること等が求められています。

そのため、東小金井事業創造センターにおける事業・産業創出等を契機とした交流や東小金井駅北口まちづくり事業用地を活用した新たな多世代交流の場づくりを通じた、交流・創造拠点としての機能強化を図ります。

(3) 新庁舎・(仮称) 新福祉会館周辺

都市計画マスタープランにおいて、新庁舎・(仮称) 新福祉会館は、行政・福祉機能の集約による総合的サービス提供と災害時における防災の拠点となることから、行政・福祉総合拠点と位置付けられています。

行政・福祉総合拠点として、新庁舎・(仮称) 新福祉会館を中心として、商業、業務及び住宅などが調和した土地利用を推進することが求められています。

そのため、武蔵小金井駅周辺との連携も図りながら、庁舎等の利用を来訪のきっかけとしつつ、地域コミュニティ活動の場としても活用することで新たな交流の創造につながる利活用を進めます。

(※新庁舎・(仮称) 新福祉会館については今後の事業進捗を踏まえ表現を調整します。)

2-2. エリアを単位とした公共施設再編

本市における公共施設の再編を進めるにあたっては、本章で示した「6つのビジョン」を踏まえ、エリア単位で公共サービスの提供体制を再構築する視点が重要です。そのため、徒歩や自転車で気軽に移動でき、一定のコミュニティのまとまりを有する現在の中学校区を基本として、市内を5つのエリアに区分し、これを公共施設再編の基礎単位とします。

これら5つのエリアは、日常的な生活圏としての機能を持つだけでなく、人口構成や地域特性、既存施設の配置状況がそれぞれ異なります。このため、すべてのエリアに同じ機能を一律に配置するのではなく、地域ごとの実情に応じて必要な機能を整理し、適切な配置とすることが必要です。施設の存続を前提とするのではなく、エリア全体として確保すべき機能を起点に、施設の役割分担や配置の在り方を検討します。

エリア設定は現中学校区をもとにしていますが、各公共施設の長寿命化や建替えを検討する際には、学校施設に限らず、同一エリア内の施設との集約・複合化を地域コミュニティの実情に配慮しながら進め、地域の活動の中心となる拠点への機能集約を図ります。

なお、各エリアの公共施設の分布状況は次のとおりです。

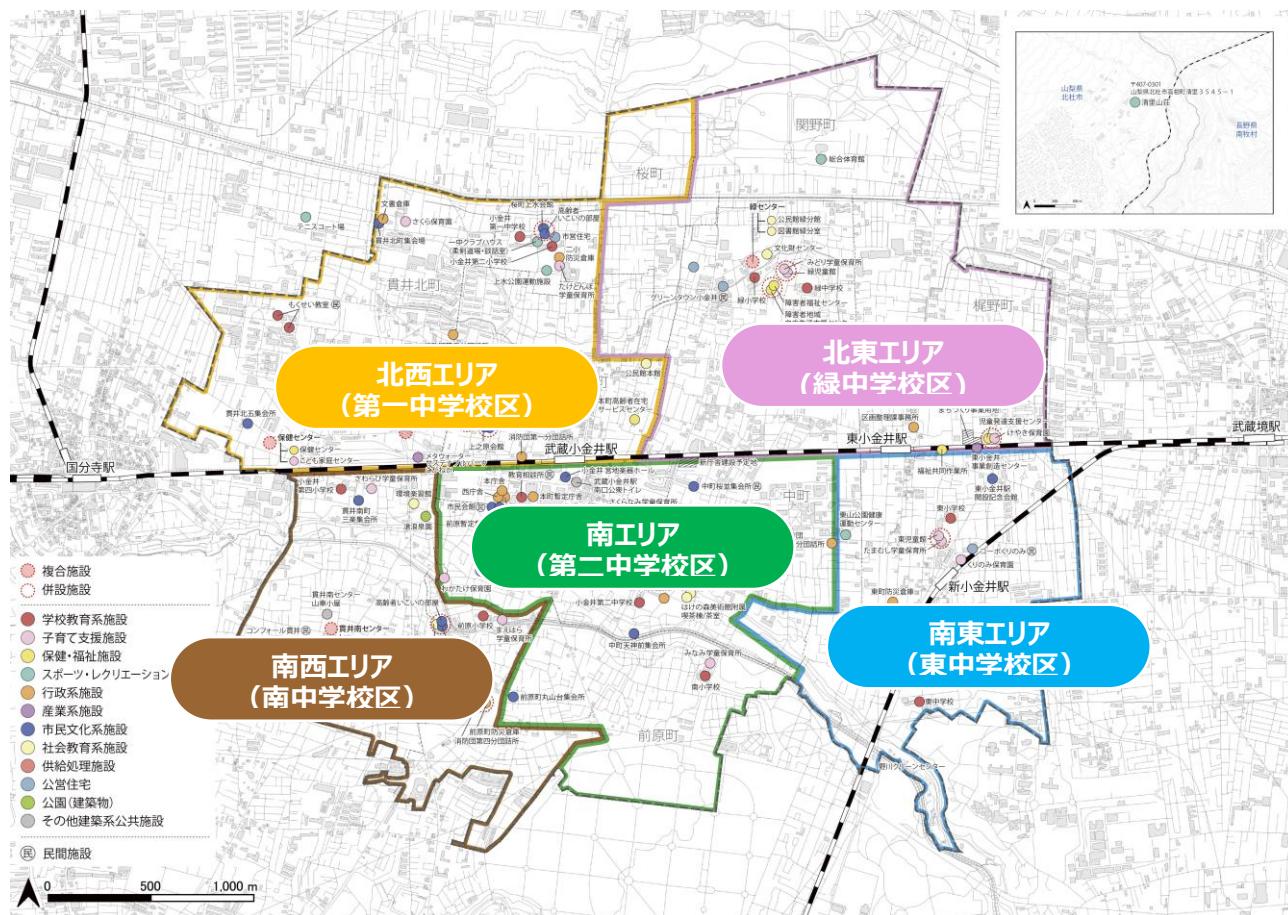


図20：エリア区分図

1) 北西エリア（第一中学校区）--

北西エリア（第一中学校区）は、JR中央本線武蔵小金井駅北側のエリアです。武蔵小金井駅周辺は商業施設が集積する一方でわくわく都民農園などの農地も見られます。また、西側には東京学芸大学、北側には小金井公園があるほか大規模団地も立地しています。市内でも人口が多く、特に年少人口の割合が比較的高い一方で老人人口割合は比較的低くなっています。

現在エリア内にある公共施設は以下のとおりです。

【エリア内の公共施設】

学校教育施設	・小金井第二小学校 ・本町小学校 ・小金井第一中学校 ・もくせい教室（民施設）
市民文化系施設	・貫井北町集会場 ・上之原会館 ・貫井北町中之久保集会所 ・桜町上水会館 ・貫井北五集会所 ・北一会館 ・高齢者いこいの部屋2箇所
社会教育系施設	・公民館本館 ・公民館貫井北分館 ・図書館貫井北分室
スポーツ・レクリエーション系施設	・一中クラブハウス ・上水公園運動施設
子育て支援系施設	・小金井保育園 ・さくら保育園 ・本町児童館 ・ほんちょう学童保育所 ・たけとんぼ学童保育所 ・こども家庭センター
保健・福祉系施設	・本町高齢者在宅サービスセンター ・保健センター
行政系施設	・消防団第一分団詰所 ・消防団第五分団詰所 ・文書倉庫 ・本町防災倉庫 ・二小防災倉庫
公営住宅	・市営住宅
供給処理施設	・メタウォーターサステナブルパークこがねい（資源物処理施設）

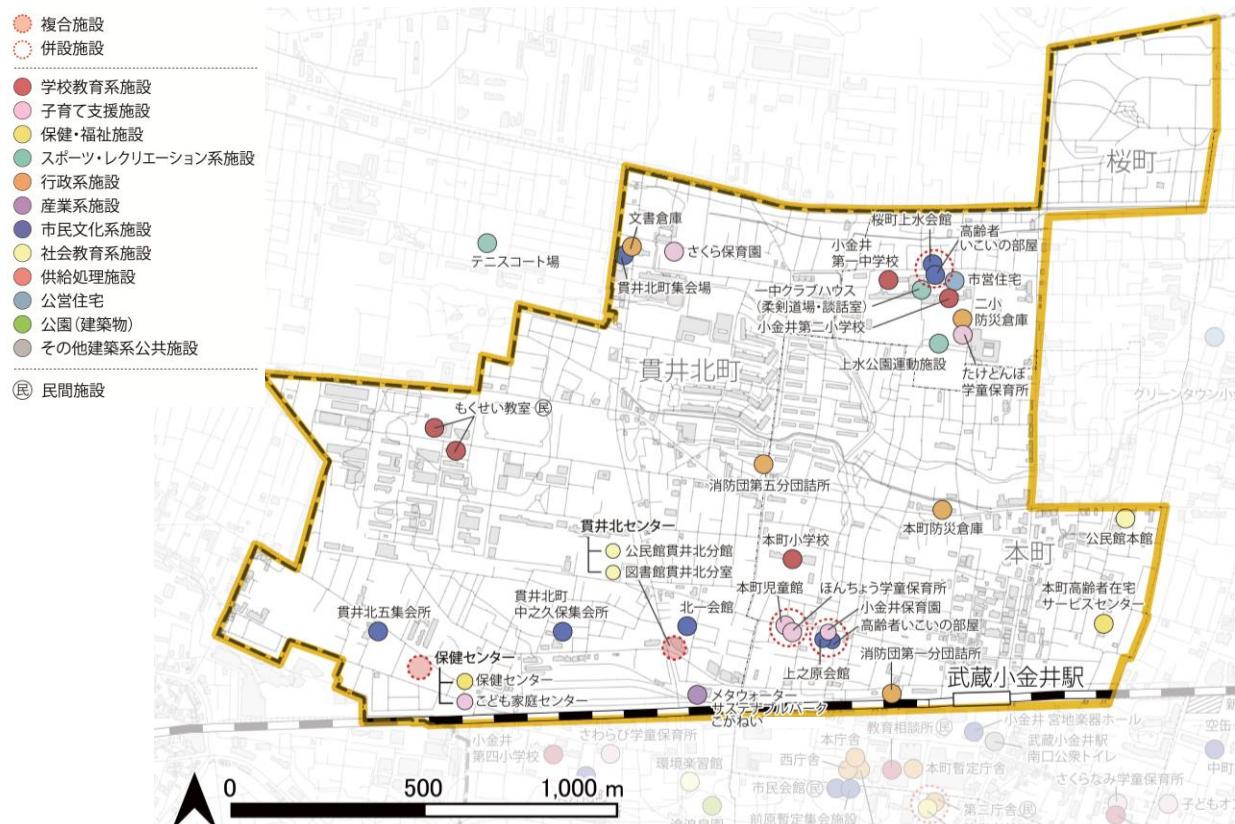


図21：北西エリア（第一中学校区）における公共施設の分布

2) 北東エリア（緑中学校区）

北東エリア（緑中学校区）は、JR中央本線東小金井駅北側のエリアです。東小金井駅周辺は商業施設が見られるほか、東小金井駅北口まちづくり事業用地があり、北側には小金井公園や法政大学が見られます。緑町は市内でも比較的人口が多くなっていますが、鉄道駅から離れると人口が比較的少ない傾向にあります。老人人口割合は鉄道駅周辺を中心に比較的低くなっています。

現在エリア内にある公共施設は以下のとおりです。

【エリア内の公共施設】

学校教育施設	・小金井第三小学校	・緑小学校	・緑中学校
市民文化系施設	・婦人会館	・高齢者いこいの部屋	
社会教育系施設	・公民館緑分館	・図書館緑分室	
スポーツ・レクリエーション系施設	・文化財センター		
産業系施設	・総合体育館		
子育て支援系施設	・けやき保育園	・緑児童館	
保健・福祉系施設	・あかね学童保育所 A・B館	・みどり学童保育所	
行政系施設	・児童発達支援センター	・障害者福祉センター	
公営住宅	・障害者地域自立生活支援センター	・福祉共同作業所	
	・消防団第二分団詰所	・区画整理課事務所	・梶野町防災倉庫
	・シルバービアグリーン（民施設）		
	・グリーンタウン小金井（民施設）		

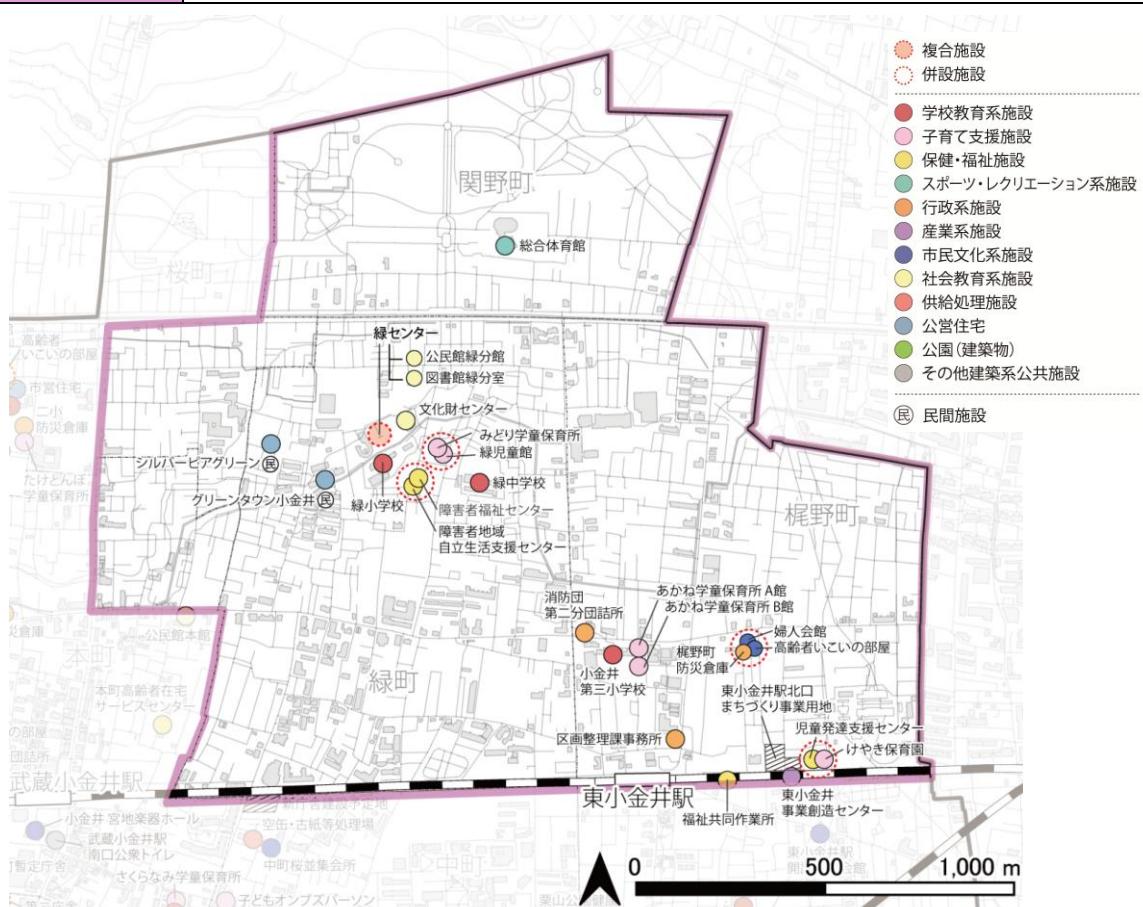


図22：北東エリア（緑中学校区）における公共施設の分布

3) 南西エリア（南中学校区） -----

南西エリア（南中学校区）は、JR中央本線以南の西側のエリアです。エリア北側には国分寺崖線（はけ）がとおり、農用地も比較的多く残っています。また、南側には総合学院テクノスカレッジが見られます。国分寺崖線より南側を中心に老人人口割合はが比較的高くなっています。

現在エリア内にある公共施設は以下のとおりです。

【エリア内の公共施設】

学校教育施設	・小金井第四小学校	・前原小学校	・南中学校
市民文化系施設	・前原町西之台会館	・貫井南町三楽集会所	
社会教育系施設	・高齢者いこいの部屋		
子育て支援系施設	・公民館貫井南分館	・貫井南児童館	・西之台会館図書室
行政系施設	・環境楽習館		
公営住宅	・さわらび学童保育所	・まえはら学童保育所	
公園（建築物）	・消防団第四分団詰所	・前原町防災倉庫	
その他建築系 公共施設	・コンフォール貫井（民施設）		
	・滄浪泉園		
	・貫井南センター山車小屋		

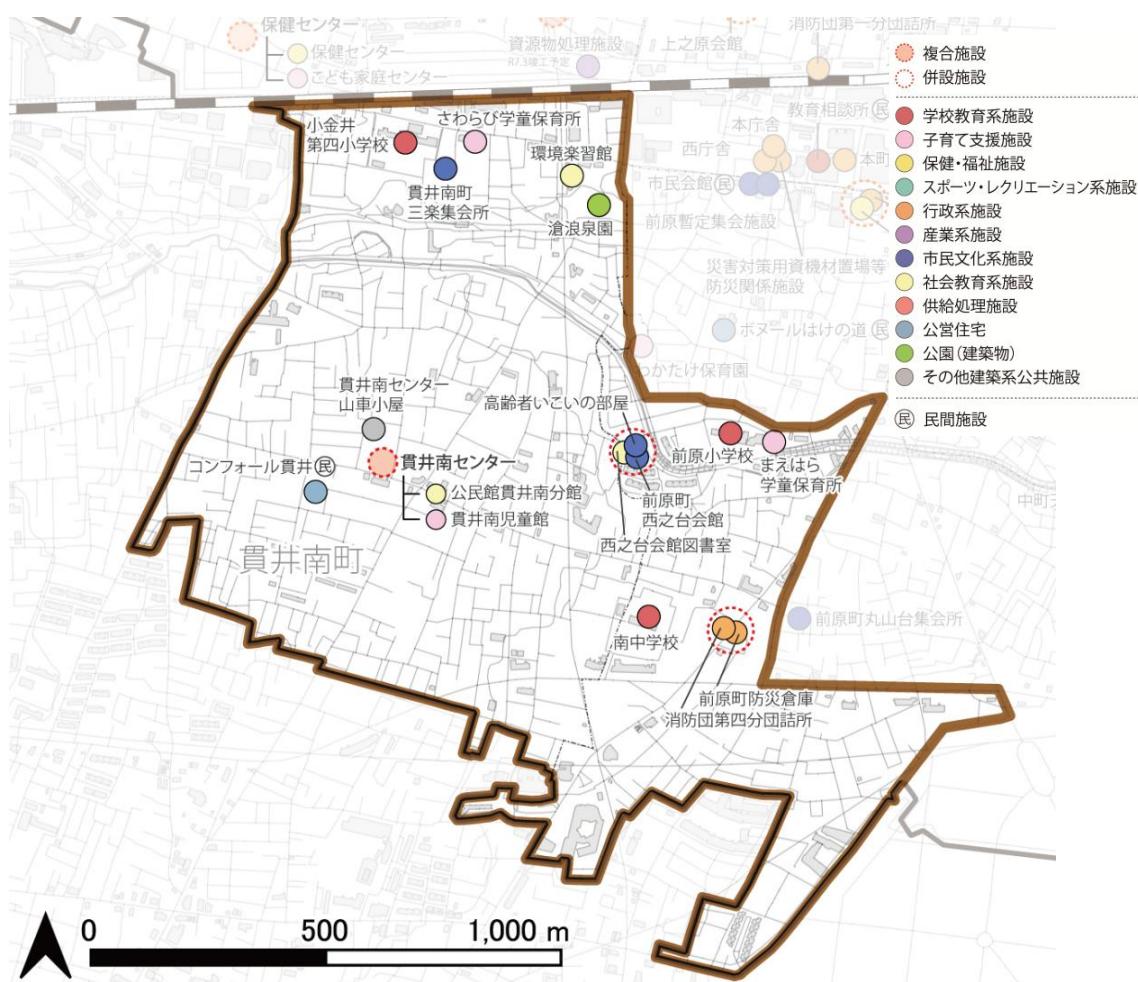


図23：南西エリア（南中学校区）における公共施設の分布

4) 南エリア（第二中学校区）

南エリア（第二中学校区）は、JR中央本線武蔵小金井駅の南側のエリアです。武蔵小金井駅近隣は商業施設や公共施設が集積しています。また、国分寺崖線（はけ）が通っており南北の高低差が見られます。南側は比較的公共施設が少なく、多磨霊園や武蔵野公園が広がっています。人口は西側が比較的多く南側は比較的少ない傾向にあり、エリア全体として老年人口割合はやや高い傾向にあります。

現在エリア内にある公共施設は以下のとおりです。

【エリア内の公共施設】

学校教育施設	・小金井第一小学校 ・南小学校 ・小金井第二中学校 ・教育相談所（民施設）
市民文化系施設	・市民会館（民施設） ・中町桜並集会所（民施設） ・前原町丸山台集会所 ・前原暫定集会施設 ・中町天神前集会所 ・小金井 宮地楽器ホール(市民交流センター)
社会教育系施設	・図書館本館 ・はけの森美術館 ・はけの森美術館付属喫茶棟/茶室
子育て支援系施設	・わかたけ保育園 ・さくらなみ学童保育所 ・みなみ学童保育所 ・子どもオンブズパーソン（民施設）
保健・福祉系施設	・障害者就労支援センター
行政系施設	・本庁舎 ・西庁舎 ・第三庁舎 ・二中防災倉庫 ・災害対策用資材置場等防災関連施設
公営住宅	・ボヌールはけの道（民施設）
その他建築系公共施設	・武蔵小金井駅南口公衆トイレ



図24：南エリア（第二中学校区）における公共施設の分布

5) 南東エリア（東中学校区）

南東エリア（東中学校区）は、JR中央本線東小金井駅の南側のエリアです。エリア内には、西武多摩川線新小金井駅もあり近隣に公共施設が集積しています。また、エリア南部を国分寺崖線（はけ）が通っており武蔵野公園が立地しています。人口は、東小金井駅と新小金井駅に囲まれた地域では比較的多くなっています。東町1丁目は年少人口割合が比較的高く、鉄道駅から離れた南側では老人人口が比較的高くなっています。

現在エリア内にある公共施設は以下のとおりです。

【エリア内の公共施設】

学校教育施設	・東小学校	・東中学校
市民文化系施設	・東小金井駅開設記念会館	・東町友愛会館
社会教育系施設	・公民館東分館	・図書館東分室
スポーツ・レクリエーション系施設	・栗山公園健康運動センター	
子育て支援系施設	・くりのみ保育園	・東児童館
行政系施設	・東町防災倉庫	
公営住宅	・コーポくりのみ（民施設）	
供給処理施設	・野川クリーンセンター	

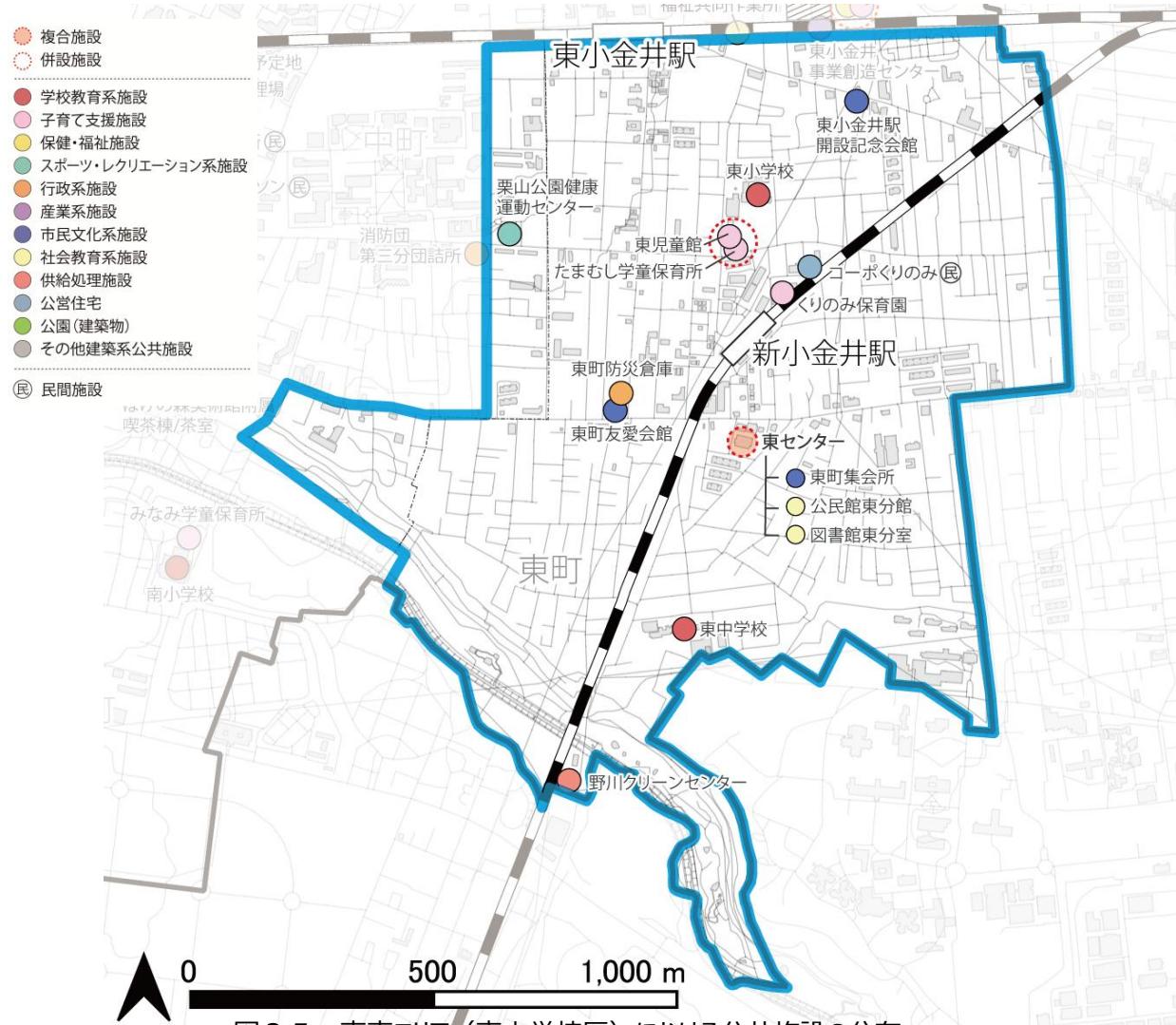


図25：南東エリア（東中学校区）における公共施設の分布

第4章 公共施設の再編の方向性

1. 公共施設の再編の方向性

総合管理計画では、人口構成の変化や財政負担を踏まえ、すべての公共施設を現状のまま維持・更新していくことは困難であるとの認識のもと、施設の総量抑制、将来更新費用及び維持管理費の縮減を基本目標としています。

本市では、この基本目標を踏まえつつ、今後の公共施設の再編にあたっては、単なる施設数や延床面積の削減ではなく、地域の将来像や市民ニーズに対応した「市民サービスの向上及び持続可能な行政サービス」を実現することを再編の方向性として目指します。

再編を検討するにあたっては、施設の設置目的、利用者属性、利用時間帯などの現状に加え、地域の将来像や市民ニーズを踏まえて、施設の「役割」と「空間のあり方」を再定義することが必要です。そのうえで、集約・複合化、柔軟な空間構成の導入などを通じて、施設総量の抑制とサービス水準の維持の両立を図ります。

特に、市内建築系公共施設の中でも延床面積の約6割を占める学校施設については、今後の更新や長寿命化の機会に併せ、他の公共施設との集約・複合化の可能性を視野に入れるとともに、教育環境の充実と地域資源としての活用の両立を図ることが求められるため、学校施設の活用における基本的な考え方についても、併せて整理することとします。

1-1. これからの公共施設のビジョンとエリア別の公共施設の再編の考え方

第3章で整理した「6つのビジョン」は、公共施設が果たすべき役割の方向性を示したものであり、施設再編における判断の基準となります。まず、各施設について、これらのビジョンに照らして役割の再定義を行い、地域の特性や利用実態に応じて機能の重点化や空間構成の見直しを進めます。

次に、集約・複合化等をエリア単位で進める視点として、「5つのエリア」に着目します。「5つのエリア」はそれぞれに地域特性や人口構成の特徴等の実情があります。その実情に合わせ、ビジョンに基づき再定義した施設の役割とエリアの特徴から、機能や利用者層の重複状況を踏まえ、効率的で使いやすい施設体系の形成をエリアごとに目指していきます。

なお、「交流・創造の拠点」における駅周辺部は、市内外から多様な利用者が集まる拠点となります。具体的には、武蔵小金井駅周辺については、小金井 宮地楽器ホール（市民交流センター）を核とした文化・地域交流機能の強化を進め、東小金井駅周辺については、東小金井駅北口まちづくり事業用地を活用した新たな多世代交流の場として施設の整備を進めます。

これにより、駅周辺では広域的な交流や多様な活動が生まれる場を形成し、5つのエリアでは各エリアの地域特性や人口構成に応じて、施設の集約・複合化等を通じて公共施設の最適化を図ります。

1－2．検討の優先順位について

公共施設の再編にあたっては、施設の老朽化状況、利用実態などを総合的に勘案し、段階的かつ計画的に検討を進める必要があります。

特に総合管理計画で施設類型ごとの基本的な方針において今後の在り方の見直しが求められている施設は、老朽化の進行状況や利用状況等の観点も踏まえながら優先的に検討を行うこととします。具体的には公共施設等総合管理計画策定推進本部において、次の視点にて協議を行い、優先順位を決定することとします。

検討順位の視点	
安全性	老朽化や耐震性の観点から早期対応が必要か
重複性・代替可能性	類似機能を持つ施設や、代替可能な施設が存在するか
財政的持続性	維持管理費や更新費用の規模を踏まえ、財政負担の軽減効果が期待できるか

1－3．学校施設について

本市の市立小中学校の学校施設は、児童・生徒の学びの場であると同時に、地域コミュニティの活動や地域防災を担う場として、多様な役割を果たしています。また、敷地・建物規模が大きく、市内建築系公共施設の延べ床面積の約6割を占める学校施設の活用は、持続可能なまちづくりの観点からも重要な課題です。

市立小中学校の学校施設は、昭和40年代から50年代にかけて整備されたものが多く、今後、老朽化に伴う大規模改修や建替えの必要性が高まることが見込まれています。将来的な施設整備にあたっては、教育環境の充実を図るとともに、地域との連携・協働の視点を併せ持つことが重要です。

小金井市学校施設長寿命化計画では、学校施設の役割として「教育活動の場」であることに加え、「地域の防災拠点」や「コミュニティ活動の場」としての機能を担っていることが示されており、施設整備にあたっては、教育環境の質の向上を図るとともに、地域資源としての活用の可能性にも配慮する必要があります。

このため、これからの中学校は、地域とともにある学校づくりの実現を目指す中で、教育の場に加えて地域社会と連携・協働しながら、創造的な活動を展開する地域の場としての機能を備えることが求められています。

従って、今後の学校施設の長寿命化改修や建替えの際には、エリア別の公共施設の再編の考え方で示されているエリア内の公共施設との集約・複合化について視野に入れるとともに、教育環境の質の向上と公共施設全体の最適化の両立を図る視点から、学校施設の活用について基本的な考え方等について整理する必要があります。

なお、現状では市立小中学校の児童・生徒数は増加傾向が続いている、35人学級への対応に向けた教室確保等の課題もあるため、他の公共施設との複合化等を行う上では、学校施設としての課題と市の公共施設全体として課題、それぞれの課題解決に資するよう留意する必要があります。学校施設は児童・生徒が安心して学び、成長する場であることが本質的な役割であるため、学校教育に支障をきたさず、次の想定される効果及び留意点を踏まえながらその充実を目指すこととします。

(1) 他の公共施設との複合化による想定される効果

① 施設機能の共有化による学習環境の高機能化・多機能化

複合化は単独の学校として整備するよりも施設機能の高機能化・多機能化を図ることができます。児童・生徒や地域住民に多様な学習環境を創出するとともに、公共施設を有効的に活用することができます。

② 児童・生徒と施設利用者との交流

学校施設と他の公共施設等が併設されているという特徴を生かし、交流の機会を設けたり、日常的に互いの施設での活動等を目にしたりすることで、児童・生徒と地域住民などの施設利用者との交流を深めることができます。

③ 地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成

学校施設と社会教育施設等との複合施設では、児童・生徒の学びの場としてだけでなく、地域にとっても生涯学習の場となるとともに、地域のコミュニティの形成にも寄与することができます。さらに、地域のつながりが強まることで、災害時の情報共有や、支援活動の基盤としても機能することが期待されます。

④ 専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援

様々な人材が集まるという特徴を生かし、学校の教育活動や課外活動などに専門性のある人材を活用したり、地域住民の協力を促したりすることで、児童・生徒により高度な専門知識に触れる機会を創出したり、学校運営への支援が行われたりすることが期待できます。

⑤ 効果的・効率的な施設整備

学校施設や公共施設等をそれぞれ単体で整備するよりも、複数の公共施設等を複合施設として一体的に整備したり、既存学校施設を活用したりすることにより、域内全体の整備費用の削減や支出の平準化を図ることができます。

(2) 他の公共施設との複合化における留意点

①児童・生徒の安全性を確保すること

児童・生徒と地域住民の動線を整理した明瞭なゾーニング、死角を作らない空間配置、安全性の確保、デジタル技術の活用など、防犯面での設計上の工夫や、防災機能の確保等、地域住民とも連携した運営上の工夫を徹底します。あわせて、児童・生徒の個人情報が外部に漏洩することのないよう、情報管理体制や設備面での配慮も含めて、適切な保護措置を講じる必要があります。

②児童・生徒の学習環境の向上につながること

施設の集約・複合化にあたっては、読書、音楽、運動の場や発表の場等、児童・生徒の学習環境の高機能化・多機能化につながる施設であることに留意します。

③教職員への過度な負担とならないこと

学校運営で多忙な教職員に対して、施設の複合化によって過度な負担がかからないよう、利用内容に応じた効率的な施設管理体制を整備する必要があります。

第5章 今後の進め方

1. 今後の検討の進め方

本方針では、これから公共施設が目指すビジョンとエリア別の公共施設の再編の考え方を踏まえ、施設の在り方や施設配置の見直しを行い、建築系公共施設の再編を進めていくこととしています。これらの方針を具体的な施策へと展開し、市民サービスの向上及び持続可能な公共サービスの提供を実現するためには、府内体制の整備、検討プロセスの構築、市民や関係者との連携、実施スケジュールの明確化、そして進捗状況の評価・見直し体制の確保が重要です。

今後は、施設ごとの役割や機能の検討と、エリアごとの集約・複合化の可能性を両軸で整理しながら、公共施設の再編に向けた取組を着実に推進していきます。

1-1. 検討体制

公共施設の再編にあたっては、府内における意思決定と調整を円滑に進めるため、公共施設等総合管理計画策定推進本部及び作業部会を中心とした体制を活用します。具体的な検討にあたっては、公共施設マネジメント推進担当と施設の所管課が連携しながら、各施設の機能や利用状況、地域ニーズ等を踏まえた在り方の検討を行うとともに、エリア別の公共施設の再編の考え方との整合を図りながら、集約・複合化の可能性についても検討を進めていきます。

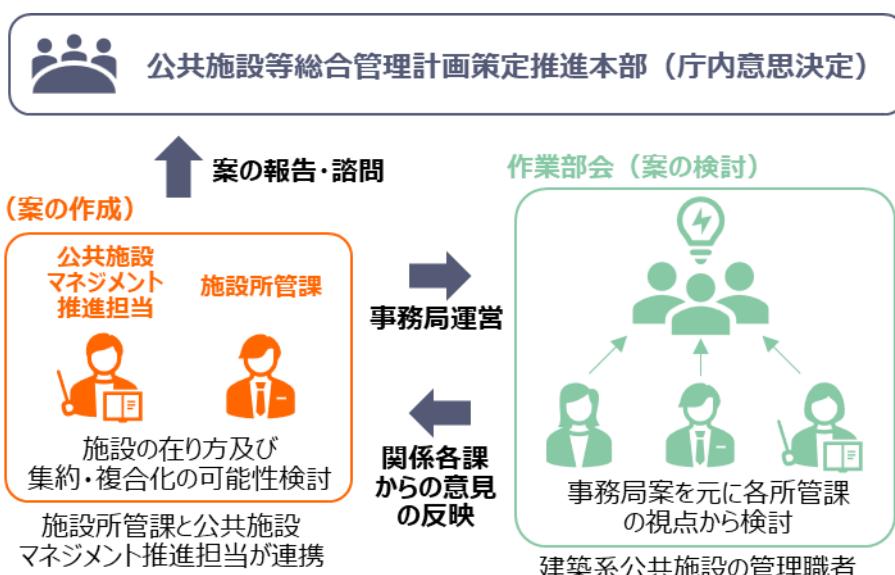


図26：検討体制のイメージ

1-2. 検討の進め方

令和8年度以降、本方針に基づく公共施設の再編に向けた検討を行います。検討対象施設については、第4章の再編の方向性で示しているとおり、公共施設等総合管理計画策定推進本部により、対象施設を選定しながら段階的に進めていきます。

1－3．想定される検討内容

公共施設の再編に向けた検討にあたっては、総合管理計画において示された「施設の在り方を検討するための評価の視点」及び「施設評価の方法」との整合を図ることが重要です。具体的には、施設の老朽化状況、利用実態、運営コスト、機能の妥当性、代替可能性など、複数の観点から施設を評価し、その結果を踏まえて再編の必要性や優先度を整理します。

こうした評価の枠組みに基づき、施設の機能や利用状況、地域特性等を総合的に把握したうえで、以下の項目について段階的かつ体系的に検討を行い、施設ごとの在り方と再編の方向性を明らかにしていきます。

検討の流れ	
①現状把握	施設の基礎的な状況や利用実態を把握し、課題とニーズを整理します。 <ul style="list-style-type: none">・施設の老朽化状況（構造・設備の劣化度、修繕履歴 等）・各諸室の稼働率・市民ニーズ（アンケート、ヒアリング、ワークショップ、利用者懇談会 等）・施設管理者からみた課題・ニーズ（アンケート、ヒアリング 等）
②施設のビジョンの検討	施設が担うべき役割や将来像を整理し、再編の前提となる方向性を明確にします。
③求められるサービス・機能の検討	地域特性や利用者の多様なニーズを踏まえ、施設に求められるサービス・機能について、行政が責任をもって確保すべき機能として整理します。
④適正規模・配置の検討	稼働率やニーズを踏まえ、必要な施設総量や配置の適正化について検討します。
⑤集約・複合化の候補の検討	施設の機能や立地、利用状況、維持管理コスト等を踏まえ、集約・複合化の対象となり得る施設を抽出し、再編の具体的な候補を整理します。
⑥官民連携手法の導入可能性の検討	施設の性質や運営形態に応じて、PPP／PFI等の官民連携手法の活用可能性を検討します。

1－4．民間活力の活用と官民連携の推進

公共施設の整備・運営にあたっては、限られた財源のもとで公共サービスの持続性と質の向上を両立させることを目的として、民間事業者との連携や民間活力の活用を積極的に検討します。

1－5．市民・関係者との連携

公共施設の再編にあたっては、市民理解と合意形成を図ることが重要です。市民ワークショップ、地域団体や施設利用者との意見交換、パブリックコメント等を検討内容に応じて実施します。

參考資料

1. 在り方・再編方針の策定に当たって（検討経緯）

1-1. 小金井市公共施設在り方検討委員会

（1）委員名簿

	役職	氏名	区分
1	委員長	市古 太郎	学識経験者
2	副委員長	讚岐 亮	学識経験者
3	委員	土山 希美枝	学識経験者
4	委員	浅野 正道(～R7.3) 増田 亮 (R7.4～)	団体等関係者
5	委員	梅根 拓也	団体等関係者
6	委員	中谷 行男	団体等関係者
7	委員	村井 芳久	団体等関係者
8	委員	小西 由華	公募による市民
9	委員	鈴木 浩司	公募による市民
10	委員	谷越 瑞希	公募による市民

（2）小金井市公共施設在り方検討委員会

回	日程	議事（検討事項）
1	令和6年8月26日	・公共施設の在り方・再編方針のイメージと検討の進め方について ・公共施設の現況と課題及び検討の論点について
2	令和6年11月25日	・公共施設等の現況等について ・公共施設機能の現状とこれからの在り方 ・これからの公共施設の在り方について
3	令和7年3月17日	① これからの公共施設の将来ビジョンについて ② 施設配置方針（エリアの捉え方）について
4	令和7年5月19日	・これからの公共施設が目指すビジョンについて ・エリア別の公共施設マネジメント方針について
5	令和7年7月16日	・志木市立志木小学校・いろは遊學館・いろは遊學図書館の視察 ・これからの公共施設が目指すビジョン
6	令和7年9月1日	・エリア別の公共施設の再編方針 ・学校施設の活用
7	令和7年11月25日	・公共施設の在り方・再編方針（素案）について
8		

1－2. 市民ワークショップ

回	日程	テーマ
1	令和6年12月14日	・必要な公共サービスって何だろう？未来の公共施設で何をしてみたい
2	令和7年1月25日	みんなのやりたいを実現するために必要な機能を考えよう
3	令和7年3月1日	私たちの考えるこれからの公共施設
・参加者延べ26名		

1－3. 庁内検討

(1) 公共施設等総合管理計画策定推進本部

回	日程	議題
1	令和6年8月21日	公共施設の在り方検討について
2	令和7年7月30日	公共施設在り方・再編方針の検討状況について
3		

(2) 公共施設の在り方・再編方針策定における職員検討会

回	日程	テーマ
1	令和6年11月5日	・将来ニーズも踏まえた確保すべき公共サービス・機能
2	令和6年11月28日	・「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か ・多様化するニーズに応え、誰も利用できる居場所を、どうしたら実現できるか
3	令和7年7月30日	・エリアごとにまちの特性を活かし、どのように公共施設を再編するのが望ましい か考えてみよう

(3) 公共施設を所管する各課へのヒアリング

1) 実施概要

実施日程	ヒアリング事項
令和6年10月11日（金）	・施設の課題、利用者
令和6年10月16日（水）	・施設利用者からの要望や意見
令和6年10月21日（月）	・施設として必要な諸室、規模等 ・他施設との複合化

2) 結果概要（令和6年10月実施）

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として必要な 諸室、規模等	他施設 との複合化
小中学校	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●35人学級導入による教室不足 ●学童保育所の大規模化への対応 ●文部科学省指針による学校施設のビジョンの対応 ●プール施設の今後の在り方 ●学区の再編 ●グラウンドの改修が未実施のため、凸凹で粒子状になっており、雨が降るとさらにえぐられ、水がたまる。 	●児童・生徒、保護者、地域団体等	<ul style="list-style-type: none"> ●校舎としては雨漏りに対する意見が多い。 ●トイレに関しては臭いへの意見はある。 ●給食室は床に凸凹があり、水はけが悪い箇所もある。 ●照明器具が切れることも多々ある。 ●エアコンなどの空調に関しての意見・要望がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●I C Tを活用した教育に対応可能な普通教室や、エレベーターへへのスロープの設置、バリアフリーによるインクルーシブ教育への対応 ●標準諸室について、他自治体では設定している事例があり、検討している。 	
教育相談所	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化 ●相談室の不足 	●児童・生徒、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ●和式トイレの問題があり、利用者（子ども）が使用できないことがある。 ●施設の雰囲気が暗い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健センター跡地の活用として保健センター2階のフロア程度を活用して教育相談所ともくせい教室の機能を統合した教育支援センターを設置することを検討している。 ●発達検査を行う際に、遊んだり情緒を落ちつかせるスペースが必要 ●東京学芸大学との連携がしやすい位置関係が望ましい。 ●施設利用者の子ども等が、人目につかずに利用できる動線は必要 ●読み書き困難のある子どもへの支援 ●もくせい教室の子に対する進路指導の充実 	●教育相談所、もくせい教室を複合化した教育支援センターの設置
もくせい教室	<ul style="list-style-type: none"> ●大学施設を無償で借りているため、大学の事情によっては退去しなければいけない可能性がある。 	●児童・生徒、保護者			

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として必要な 諸室、規模等	他施設 との複合化
集会施設	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等	●市民	●設備の故障への対応 ●設備の充実 ●使いやすい部屋は倍率が 高く、団体の希望する曜 日通りには使用ができない という声がある。	●現状施設規模で問題はない	●学校教育系施設 や同種類似施設 との複合化の検 討は可能
北一会館	●施設の老朽化等	●町会等（地元 町会が管理運 用している。）	●トイレなどの修繕について 意見がある。	●現状施設規模で問題はない	
高齢者 いこいの部屋	●施設の管理は、高齢者いこいの部屋 が入っている集会施設等で行っている	●老人クラブ等の 団体	●和室からフローリング化して ほしいという意見がある。 ●活動する上の設備に対 する要望はある。	●現状は和室の空間であるが、フローリ ングで広めの空間	●複合化の検討は 可能
小金井宮地楽器 ホール（小金井市 民交流センター）	●今後の計画的な修繕 ●設備等の修繕等	●市民等	●土日など人気の曜日は倍 率が高く、なかなか抽選に 当たらないという声がある。	●現状施設規模で問題はない	
公民館	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●有料化の検討	●社会教育に係 る活動を行うこと を目的としている 団体	●施設の設備・備品等の改 善を求める意見が多い。	●公民館中長期計画（令和3年3 月）においては、本館を設置せず、 地域館5館体制とすること、老朽化 した公民館本館については、庁舎跡 地における設置の可能性も検討する こととなっている。	●学校施設等との 複合化の検討は 可能
図書館	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●本館施設の在り方 ●蔵書スペースの不足 ●バリアフリー対応 ●駐車場の不足	●市民等	●本館について、調べものを 含めた閲覧の機能に乏しく、貸出機能だけだと指摘 されたことがある。	●利用者が長時間滞在できる「空間」 を求めている。本館ではそのような機 能が不足している。 ●蔵書の保管場所が不足している。	●閲覧環境の確保 など、運営上の課 題が解決できれ ば、他施設との複 合化の検討は可 能。

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として 必要な諸室、規模等	他施設 との複合化
はけの森美術館	●施設の劣化 ●設備等の修繕等 ●収蔵庫のスペース	●市民等		●現状施設規模で問題はない	
文化財センター	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●文化財の保管スペースの確保	●市民等		●現状施設規模で問題はない	
環境楽習館	●施設の劣化 ●設備等の修繕等	●市民等	●利用者からの施設に関する要望は特に出ていない。	●施設規模としては適正と考える。 ●サービスとしては貸室機能が中心であり、そこに環境教育の付加価値がつけられている。 ●環境教育の普及啓発という位置づけの施設は市内で本施設のみである。環境啓発の拠点として継続して運営する必要がある。	●滄浪泉園から環境楽習館へつなぐ整備工事を予定しており、一体的に活用する計画がある。
総合体育館	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等	●市民等	●設備の故障等	●現状施設規模で問題はない	
栗山公園健康運動センター	●設備等の修繕等	●市民等	●設備の故障等	●現状施設規模で問題はない	
一中クラブハウス	●施設の老朽化	●団体、学校		●現状施設規模で問題はない	
清里山荘	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●清里山荘の在り方（他の自治体は施設を廃止しており、今後の在り方にについて検討中）	●学校、市民等	●トイレが和式であることや、各居室にエアコンがないことに対してご意見をいただいている。	●現状施設規模で問題はない	
東小金井事業創造センター	●設備等の修繕等	●創業支援等希望者（入居審査等あり）		●現状施設規模で問題はない	

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として 必要な諸室、規模等	他施設 との複合化
保育園	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●園庭に関しては、砂や地面がえぐれ、地面高が低くなっている。 ●バリアフリー等、近年求められるニーズへの対応 ●DX の対応 	●園児、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の修繕を求める声が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、市立保育園の在り方検討を行っており、その結論を踏まえて今後の在り方について市の現在の方針を改定する予定。 ●電子化、DX 化などが求められる。 ●施設の長寿命化の基準は満たしているが、現在の保育ニーズを満たす設計にならないため、維持するとした場合も対応しなくてはいけないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの安全性などが担保されることは必要であり、施設設備基準を満たせば複合化の検討も可能
児童館	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●学童保育所大規模化対応に伴う諸室の利用時間の減少、混雑 	●子ども、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化や設備の修繕について意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●バリアフリートイレの設置 ●調理場が必要になる。 ●防音対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校施設等との複合化の検討は可能
学童保育所	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●学童保育所の大規模化対応 	●子ども、保護者	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模化に伴う保育場所の確保について意見がある。 ●施設の老朽化や設備の修繕について意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学童保育所は、基準で定められている 1 人あたり 1.65 m²のスペースの確保が必要。 ●バリアフリートイレの設置 ●2 方向避難路の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校施設等との複合化の検討は可能
子ども オンブズパーソン	●現施設の契約期間後の施設について	●子ども、保護者		<ul style="list-style-type: none"> ●現状施設規模で問題はない 	
本町高齢者 サービスセンター	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の劣化 ●設備等の修繕等 	●在宅の虚弱な高齢者、ねたきり高齢者等	<ul style="list-style-type: none"> ●内観のデザイン等について意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現状施設規模で問題はない 	
児童発達 支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の劣化 ●設備等の修繕等 ●駐車場・駐輪場設備 ●文書保存等の場所の確保 	●子ども、保護者		<ul style="list-style-type: none"> ●現施設規模ではスペースが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既存施設においては保育園との複合化施設

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として 必要な諸室、規模等	他施設 との複合化
障害者福祉センター 障害者地域自立生活支援センター	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等	●障がい者		●現状の面積では受入人数を増やす る状況ではない。	
障害者就労支援センター	●相談室と外部との動線	●障がい者		●通所施設ではないので、事務所と相 談時の応接室があれば対応できる。 ●プライバシーが確保できる動線の確保	
福祉共同作業所	●場所的に音、振動は問題ない。	●障がい者		●現状施設規模で問題はない	
消防団詰所	●施設の老朽化	●消防団	●車庫の狭さについて意見が 出ている。 ●経年劣化等に伴う施設・ 設備の故障などの意見が 出ている。	●各分団のポンプ車について、時代にあ わせて車両装備（コーナーセンサー、 衝突防止設備等）の拡充がされて おり、車両の出入庫等が難しくなっ ている。 ●女性消防団員入団に際する詰所内 改修	
文書倉庫	●施設の老朽化 ●永年文書の取扱い	●市職員		●文書の出し入れのしやすい場所である ことが必要。（廃棄時には 13 トント ラックと補助のトラック、その他 3 台の車 が駐車できる程度のスペースが必要。 また作業するにあたりトイレも必要） ●永年文書等のうち、歴史的価値があ るような文書については、歴史的文書 で保存・展示するといった検討が必 要。	
防災倉庫	●施設の老朽化	●市民		●防災倉庫全体としては、求められる 備蓄からすると不足している状態 ●時代によって、備蓄する物や量が変 化しているが、必要な備蓄容量は増 えている傾向である。	●学校施設への複 合化の検討は可 能

施設名称	課題等	施設の利用者	施設利用者から の要望や意見	施設として 必要な諸室、規模等	他施設 との複合化
市営住宅 高齢者住宅	●施設の老朽化 ●設備等の修繕等 ●入居者の高齢化への対応	●市民（入居資格要件あり）		●現状維持を基本としつつ、管理方法、公営住宅の在り方等についても検討していく。	●既存施設においても集会施設との複合化施設
滄浪泉園	●施設の老朽化	●市民（建物は指定管理者が事務所として利用）	●樹木の越境や敷地内の設備の破損などに関する意見が寄せられている。	●事務所スペースは可能であれば拡張したい。	
貫井南センター山車小屋	●市の無形文化財である貫井囃子の山車を保護するために設置された。無形文化財を保持する団体が活用するため、立地としては現在の場所が適当である。			●現状施設規模で問題はない	
自転車駐車場	●設備等の修繕等 ●DX の対応 ●駅周辺の恒久的に使用できる土地の確保	●市民等	●駅周辺地への自転車駐車場の設置について要望がでている。	●駅から比較的近い場所に、ある程度集約した一定規模の自転車駐車場を整備できるとよい。	

1－4. 市民ワークショップ

これからの公共施設の在り方について、3回の市民ワークショップを通じて市民の皆様と検討しました。

【実施概要】

回	日時	人数	テーマ
第1回	令和6年12月14日	10人	・必要な公共サービスってなんだろう ・未来の公共施設で何をしてみたい
第2回	令和7年1月25日	10人	・みんなのやりたいを実現するために必要な機能を考えよう
第3回	令和7年3月1日	6人	・私たちが考えるこれからの公共施設

【主な意見（キーワード）】

- 地域コミュニティの創造拠点
- 多世代の交流
- 地域の人が活躍できる場
- みんなでつくる場
- できることを持ち寄れる場
- 場を保持（市民が集まる）
- 顔を合わせられる場
- 休憩所のような居座れる場所
- 大人も子供も、テーマ・理由もなくてもだべる場
- しゃべらなくてもいられる場
- 知り合いができる
- 助けてほしい、手伝ってほしいが言える場
- 気軽に声を掛け合える（声をかけてもらうことででかけてよかったと思えるつながりがある）
- 機能・サービスがまぜこぜの場
- 目的がない人も使える
- 過ごし方を強制されない場
- フードコートのような場（広い場だがお互いの存在が認識できる）
- 一人でも大勢でも利用できる（場にグレーデーションを持たせる）
- ニーズや状況に応じたルールの見直し
- 暮らしの一部になる場所
- それぞれの安心が確保された場
- アクセスしやすい地域の拠点となる施設を一定数配置
- 移動手段の確保
- 災害対応を踏まえた施設配置
- 空間や使い方に余白のある場
- ふらっと寄れる、滞留できる場所
- インクルーシブ（包み込む、包括する）
- 行政の相談窓口（教育、子育て、福祉、創業・企業、空き家等々）
- 民間施設の活用
- 多世代が使えるユニバーサルデザイン
- 眺望が良い空間
- 写真映えする施設
- 気軽に通える、体を動かせられるような施設
- 質の良い芸術に触れられる場
- 子どもが遊べる場
- ワークスペース（リモートワークができる）
- 自習、勉強ができる場
- 中学生から大学生がチャレンジできる
- ものづくりができる場
- 訪れた市民がワークショップのような体験ができる場
- おしゃれなカフェやレストランがある施設
- キッチン、共同炊事場
- 投函できる行政サービス
- 平等に利用できる（特定の団体が独占しない）
- 施設の計画・運営への市民参加
- ソフト面に人材を使う、コーディネーター等の配置
- イベントの実施
- 駅前等に無人で運用できるサービスがあるとよい

【第1回結果概要】

■公共施設の利用状況について

- 日常的には図書館やスポーツ施設などの定期的な利用が多く、一方で、イベント等のスペースが必要とされる活動では集会施設等が利用されている。

■必要な公共サービスについて

- 継承していく人がいないと、使われない施設・市民から離れた施設になりかねない。
- キーとなるのはつなぐ・まとめる人。
- 世代によって使い方、また、コミュニティの度合いも変わっていく。
- 目的がなくとも使うことができ、地域・社会と多くのつながりを持つことができる公共施設が求められている。

みんなの居場所 ニーズが多様化している。具体的な目的をもった場よりも居場所を求めている。

人と人をつなぐ機能 みんなの居場所の実現のために人と人をつなぐ機能（コーディネーターやコンシェルジュ）は欠かせない。

【第2回結果概要】

■今後（未来）の小金井市の公共施設の施設・機能について

- フードコートのような目的がなくても寄れる、人を機能別に分けないリビングのようなインクルーシブな施設が望ましい。
- 教育施設は、施設の共用化や今後空き教室が出てきた際の利用について検討すべき。
- なくなったら困るけれどあまり利用しない。そのような施設が多く見られるのが課題と認識している。
- 図書館はワークスペースの充実、公民館は個人利用可への要望など滞在場所としてのニーズがある。
- 図書館や公民館は、カフェや個室の作業スペースなど多目的に利用できる機能が必要。

- 市民利用に供する施設では、自由に過ごせる場所で特定の目的がなくても立ち寄れるような、**滞在場所**でもあり、**多世代交流が可能となる機能・インクルーシブな施設**が求められている。
- なくなったら困るもの、あまり利用されていない施設が市内に多く見られ、**地域の課題解決につながるような施設としてその利用・活用方法を見直すことが必要**と考えられている。

■未来の公共施設は、どのような場所にあつたら良いか

- 市内6か所程度のコア施設を配置
⇒新庁舎は行政・福祉機能の拠点、コミュニティ創造の拠点を東小金井駅前と武蔵小金井駅前に整備し、学生含め市民、市外の方が交わる場とする。
- 中学校を核として周辺に様々な機能を持った施設を配置
- 特定利用目的は駅前でなくして良く、駅近は交流機能や附帯の行政サービスを配置

- 武蔵小金井駅をはじめとする駅前や駅周辺にコア施設があり、既存の公民館（センター）もしくは中学校などを核とした地域拠点を配置するといった考え方が示されている。
- 駅前・駅周辺施設は、市内外の交流が可能な交流機能と行政サービス機能等を附帯させた利便性の高い施設が求められている。

【第3回結果概要】

班	1班	2班	3班
キヤッチフレーズ	<p>つながり育てるみんなの『庭』 =市民の主体的な交流を促進し、未来のニーズに応える施策の提案=</p>	<p>“時代のニーズに合わせた機縫会場を図っていく” =認め合い、支え、繋がりいきいきと暮らそう=</p>	<p>小金井に居続けたいと思うコミュニティネットワークが生まれる場所</p>
目指す姿や方針、公共施設のこれから在り方など	<ul style="list-style-type: none"> ● 未来への視点 3つの必要要素：つなぐ人、つなぐ機能、つなぐ体制 ● 視点からのコンセプト（行政がやるべきこと） <ul style="list-style-type: none"> ①つながることを手伝う ②つながらない自由を尊重する ③目的・テーマにこだわらない ● 新施設とセットでやるソフト施策等について <ul style="list-style-type: none"> ①つなぐ人をふやす ②交通手段の整備 ③取り組みの姿勢について プロトタイピング + 走りながら考える。 <p>短いスパンで振り返り、見直しを行う。 「余白」を持つ施設、常に進化・成長していく。市民（利用者）が施設をつくっていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人（市民）・文化・市民の活動をつないで社会に広げていく ● 地域拠点施設（コア施設）を設ける ● 各々の状況・ニーズに合わせて利用施設、利用方法を選択できる ● 誰もが公平に、気軽に利用できる ● これからのまちづくりを考える場を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小金井に居続ける（住み続ける）理由になる公共施設 ● 「交流」コミュニティをつくるキッカケになる ● 誰でも使用できる ● 事業としての持続可能性が確保されている
配置の考え方・イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ● 場所が大がかりな施設は、両駅付近に配置。他は小学校区・中学校区をベースに配置。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域拠点（コア施設）は5つ（中学校区：東/北東/北西/中/南）各拠点に機能を集約する 	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントなどが実施される拠点施設には大きな駐車場を配置する ● 駅前など利便性の高い場所に、自由に入り/交流、無人予約受取り図書館、行政 MaaS のような簡易的スペース ● 徒歩圏内の人人が集まる範囲に集会所のような施設は必要

1 – 5. 職員検討会

これから公共施設の在り方について、3回の職員検討会を通じて職員の皆様と検討しました。

【実施概要】

回	日時	人数	テーマ
第1回	令和6年11月5日	20人	・将来ニーズも踏まえた確保すべき公共サービス・機能
第2回	令和6年11月28日	20人	・「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か ・多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか
第3回	令和7年7月30日	20人	・担当者が抱える課題や解決策事例等の共有 ・まちの特性を活かし、地域コミュニティの拠点として地域の活性化、利便性や市民サービス向上、相乗効果が期待できる施設の集約・複合化の組合せを考えてみよう

【第1回・第2回での主な意見（キーワード）】

- 多世代交流ができる場所
- 人と人が出会う文化・交流などの機能
- 誰もがふらっと立ち寄れる場所
- 設置目的だけではないフレキシブルな利用ができる施設
- 自由に使える簡易的な居場所
- ニーズのある居場所となる施設
- 家族だけでは体験できないことが体験できる場所
- 誰でも利用できるサービス提供
- 用途の転用等が容易にできる汎用性の高い施設
- 様々な選択肢の提供
- デジタル技術による情報取得等に困難を抱える方々や、社会的に支援が必要な方々に対するサービスの提供
- 学校教育、保育、清掃関連、治安機能、防災機能は公共サービスとして必要
- 民営化できないもの、市としてやらなければいけないこと（法令の定めによるもの）は維持が必要
- 社会的に支援が必要な方への支援（自立している方には自分でやってもらう）
- 災害時の拠点
- 提供機能・サービスの選択による財源の集中
- 最低限必要なものを残していく
- 既存ハコモノ（施設）の用途変更・有効活用
- 地域企業など、民間の力を活用した施設運営を行う
- 民との複合化
- 民間への委託
- 広域連携（近隣市との乗り入れ）
- 大学との連携
- ハコモノに頼らないソフト面での支援
- サービスの提供場所の変更、発想の転換
- 施設・サービスの複合化
- 施設管理を一括化することで、修繕などの予算配分や委託料のコスト管理を柔軟に行う
- デジタル技術・AI活用による業務・運営効率化
- 市民の声を反映していくこと
- 多様なニーズすべてには対応できない
- 多様な情報発信
- インクルーシブな環境
- 比較的安価な利用料

【第3回での主な意見】

①担当者が抱える課題や解決策事例などの共有(主な課題と解決策)

●担当者の課題認識

- 学校教育系施設：児童生徒数の増加への対応や、利用期間の短いプールの維持管理コストが高い。
- 市民文化系施設：集会施設と公民館の機能の類似。
- 子育て支援系施設：職員や人材確保が課題になっている。
児童数増加に伴う学童保育所の不足。
- 保健・福祉施設：子育て支援系施設と同様に、職員や人材確保が課題になっている。
- 特に支援が必要とされる子育て・保健・福祉の分野でニーズの多様化、利用者増に伴い、それに見合ったサービス提供が課題となっている。

●解決策案や他事例

- 学校教育系施設の集約・複合化
 - ・一貫校の検討や民間施設（プール等）の活用、その他施設との集約・複合化
- 今後の施設の在り方が問われている施設については、用途の転用や集約化
- 子育て支援系施設や保健・福祉施設の複合化・多機能化や施設開放の拡大
 - ・施設ではなく、コンテンツの提供による支援の転換
 - ・分野的に双方に係る部分も多いため、施設の複合化・多機能化により、職員の融通がきくとともに、現在のニーズにあったサービスの提供が実現できる可能性がひろがる。
 - ・学校の活用（学校内の多目的室や体育館の開放）

②まちの特性を活かし、地域コミュニティの拠点として地域の活性化、利便性や市民サービス向上、相乗効果が期待できる施設の集約・複合化の組合せを考えてみよう

●集約・複合化組合せ案

- 学校教育系施設を中心とした、保育園や学童保育所、集会施設等の複合化による地域コミュニティ拠点の形成
- 学校教育系施設、公民館、図書館の集約による、教育・社会教育・文化拠点の形成
- 図書館、公民館機能に、集会施設の集約による、地域活動拠点の形成
- 保健・福祉系施設の集約による利用者ニーズへの対応

等

●地域に必要とされる施設・機能

- 地域に開かれた施設（目的がなくても使えるインクルーシブな施設）。
- 集約・複合化にあたっては、各団体や利用者の意見をよく踏まえた上で、必要とされる機能を備える必要がある。
- 新庁舎・（仮称）新福祉社会館に機能移転後、特に福祉分野においては、必要とされるサービスを受けられなくなった方々に対し補完する機能を地域におく必要あり。
- 市有地のみならず、施設の借用など多様な形態での公共サービスの提供の検討。

等

2. 公共施設の基礎情報

2-1. エリア別建築年別公共施設

北西エリア（第一中学校区）※2025年度時点の建築経過年度

■築50年以上～									
●学校教育施設		●市民文化系施設		●社会教育系施設		●子育て支援系施設		●行政系施設	
小金井第二小学校	1971	貴井北町集会場	1972	公民館本館	1972	さくら保育園	1972	文書倉庫	1972
本町小学校	1965	—	—	—	—	本町児童館	1972	本町防災倉庫	1969
もくせい教室 (民施設)	1974	—	—	—	—	—	—	二小防災倉庫	1971
■築40年以上～									
●学校教育施設		●市民文化系施設			●子育て支援系施設		●行政系施設		
小金井第一中学校	1978	上之原会館	1983	一中クラブハウス	1984	小金井保育園	1983	消防団第五分団詰所	1976
—	—	貴井北町 中之久保集会所	1984	—	—	ほんちょう 学童保育所	1982	—	—
■築30年以上～									
●市民文化系施設		●子育て支援系施設		●保健・福祉系施設		●行政系施設		●公営住宅	
桜町上水会館	1987	こども家庭センター	1994	保健センター	1994	消防団第一分団詰所	1989	市営住宅	1987
築20年以上～									
●市民文化系施設		●社会教育系施設		●スポーツ・ レクリエーション系施設		●保健・福祉系施設		●子育て支援系施設	
貴井北五集会所	1996	公民館貴井北分館	2013	上水公園運動施設	2005	本町高齢者在宅 サービスセンター	1998	たけとんば 学童保育所	2011
北一会館	1996	図書館貴井北分室	2013	—	—	—	—	—	—
■築10年以内									
●供給処理施設									
メタウォーター サステナブルパーク こがねい	2024								

北東エリア（緑中学校区）※2025年度時点の建築経過年度

■築50年以上～					■築40年以上～				
●学校教育施設		●市民文化系施設		●行政系施設		●学校教育施設		●行政系施設	
緑中学校	1972	婦人会館	1967	梶野町防災倉庫	1967	小金井第三小学校	1976	南中学校	1977
■築30年以上～									
●社会教育系施設		●スポーツ・ レクリエーション系施設		●子育て支援系施設		●保健・福祉系施設		●行政系施設	
公民館緑分館	1991	総合体育館	1989	緑児童館	1987	障害者福祉 センター	1993	消防団第二分団詰所	1993
図書館緑分室	1991			みどり学童保育所	1987	障害者地域自立 生活支援センター	1993	区画整理課事務所	1992
文化財センター	1993								
●公営住宅									
シルバー ピアグリーン	1991								
■築20年以上～		■築10年以上～							
●公営住宅		●産業系施設		●子育て支援系施設			●保健・福祉系施設		
グリーンタウン 小金井	2000	東小金井 事業創造センター	2014	けやき保育園	2013	あかね学童保育所 A館	2014	児童発達支援 センター	2013
■築10年以内									
●子育て支援系施設		●保健・福祉系施設							
あかね学童保育所 B館	2020	福祉共同作業所	2016						

南西エリア（南中学校区） ※2025年度時点の建築経過年度

■築60年以上～		■築50年以上～							
●学校教育施設		●社会教育系施設		●子育て支援系施設					
前原小学校	1962	公民館貫井南分館	1973	貫井南児童館	1973				
■築30年以上～									
●学校教育施設				●公園（建築物）		●行政系施設			
小金井第四小学校	1978	南中学校	1977	滄浪泉園	1979	消防団第四分団詰所	1982	前原町防災倉庫	1982
■築20年以上～									
●市民文化系施設				●社会教育系施設		●公営住宅	●その他建築系公共施設		
前原町西之台会館	1987	貫井南町三楽集会所	1990	西之台会館 図書室	1987	コンフォール 貫井（民施設）	1992	貫井南センター 山車小屋	1991
■築10年以上～									
●社会教育系施設		●子育て支援系施設							
環境楽習館	2011	さわらび学童保育所	2009	まえはら学童保育所	2009				

南エリア（第二中学校区） ※2025年度時点の建築経過年度

■築60年以上～									
●社会教育系施設		●行政系施設							
はけの森美術館付属喫茶棟/茶室	1959	本庁舎	1965	西庁舎	1959				
■築50年以上～									
●学校教育施設				●社会教育系施設		●子育て支援系施設	●行政系施設		
小金井第一小学校	1973	小金井第二中学校	1975	公民館本館	1973	わかたけ保育園	1970	二中防災倉庫	1975
南小学校	1973	教育相談所（民施設）	1974					災害対策用資材置場等防災関係施設	1966
■築40年以上～				■築30年以上～					
●市民文化系施設		●行政系施設		●社会教育系施設		●保健・福祉系施設	●行政系施設		
前原町丸山台集会所	1984	本町暫定庁舎	1978	はけの森美術館	1989	障害者就労支援センター	1993	第二庁舎	1993
—	—	小金井市消防団第三分団詰所	1985	●公営住宅					
—	—	—	—	ボヌールはけの道（民施設）	1992				
■築20年以上～		■築10年以上～					■築10年以内		
●市民文化系施設		●市民文化系施設		●子育て支援系施設		●その他建築系公共施設	●子育て支援系施設		
市民会館（民施設）	2001	前原暫定集会施設	2006	さくらなみ学童保育所	2012	武蔵小金井駅南口公衆トイレ	2011	みなみ学童保育所	2016
中町桜並木集会所	1996	小金井宮地樂器ホール(市民交流センター)	2010	—	—	—	—	子どもオンブズパーソン（民施設）	2022
中町天神前集会所	1997								

南東エリア（東中学校区） ※2025年度時点の建築経過年度

■築60年以上～		■築50年以上～		■築40年以上～							
●学校教育施設		●子育て支援系施設		●学校教育施設							
東中学校	1964	くりのみ保育園	1968	東小学校	1982						
■築30年以上～											
●市民文化系施設				●社会教育系施設				●スポーツ・ レクリエーション系施設			
東町集会所	1988	東町友愛会館	1993	公民館東分館	1988	図書館東分室	1988	栗山公園 健康運動センター	1994		
●子育て支援系施設				●行政系施設		●公営住宅					
東児童館	1988	たまむし学童 保育所	1988	東町防災倉庫	1993	コーポくりのみ	1990				
■築20年以上～		■築10年以内									
●市民文化系施設		●供給処理施設									
東小金井駅 開設記念会館	2005	野川クリーン センター	2019								

2 - 2. 公共施設の分布状況

令和8（2026）年3月時点での公共施設の分布状況は以下の通りです

